

立命館

父母教育後援会だより



A Magazine for Ritsumeikan University
Parents Association of Student Education Assistance

2011年度
冬号

2011 Winter Issue

CONTENTS

2 [特集] 大学で見つける。本当にやりたいこと。

- | | | |
|--------------------|------------------------------------|----------------|
| 10 親の心配、子どものホンネ | 33 父母教育後援会だより 2011年度夏号 読者アンケートについて | 44 きょうのおひる |
| 12 社会で活躍する校友インタビュー | 34 2012年度からの新たな奨学金制度について | 46 保健センター健康通信 |
| 14 秋のオープンカレッジ | 38 立命館のゼミナール訪問 | 48 学生イベント&スポーツ |
| 28 アカデミック京都ウォッチング | 42 施設紹介 | 50 学園トピックス |

オリターの先輩に
支えられて、
自分でも驚くほど
積極的になりました。



アルバイトばかりで
意欲を失いかけたことも。
今、勉強が楽しくて
仕方がない!



特集

大学で見つける。 本当にやりたいこと。

今も進路に迷っています。
でも全力で取り組みば、
きっと道は開けるはず!



何をしたいのか。
ずっと考えながら
過ごした3年間。
大学院進学を
決めました。



「オール英語」の授業に
英語力の未熟さを痛感。
やるしかありません!



「フランスのまちづくり」
を研究中。
大学院へ進学
しようかな...



やりたいことが
多すぎて...
自己管理の力も
必要です。



第一志望に落ちたことを
引きずっていたけど、
今はしっかり
前を向いています。



気が緩んで
サボりそうになったことも。
今は中国留学へ向けて
勉強中です。



「遊べるはず」
なんて甘かった。
同じ目標を持つ仲間と
一緒にがんばっています。



夢の形は一つじゃない。
もっともっと
おもしろいことが
あると思う!



学術イベントの
企画・運営で学んだことが、
これからの糧になると
思います。



人との出会いが
自分を変えるきっかけに
なりました。



「大学で何をしたいのか、わからない」「将来が見えなくて不安」。そんな学生は少なくありません。けれどそれは、みんなが抱えていること。だれもが自分の進路に悩み、時に迷ったり、時には大きな挫折を経験しながら、4年間の学びの中で少しずつ自分の本当にやりたいことを見出していくのです。今回は、それぞれの学生生活を精いっぱい送る中で、自分の進路を模索している13名の学生を紹介します。

CASE

01



オリターの存在が支えに。 自分でも驚くほど積極的になった。

法学部3年生 切石麻美 さん

入学して数カ月、実家から遠く離れた大学に進学したことを後悔ばかりしていました。大学に知っている人は一人もいません。もともと自分から人に声をかけるのは苦手な性格。わからないことがあってもだれにも尋ねられず、大学では戸惑ってばかりでした。家に一人こもっていても寂しさが募り、「もう家に帰りたい」と何度思ったかわかりません。

そんな心細い大学生活を変えてくれたのが、新入生をサポートするオリター*の存在でした。勉強のこと、生活のこと、何でも相談に乗ってくれたことはもちろん、何より私を気にかけてくれる人がいることが心強かった。「自分から動かなきゃ、何も変わらない」と、勇気をふりしぼって周囲の学生に話しかけたのも、オリターの先輩の励ましがあつたから。行動を起こせば、周りは応えてくれるものですね。友達が増えるにつれ、自分でも驚くほど積極的になっていきました。大学に馴染めずにいる後輩を今度は私が助けられたらと、オリター団へ。3年生になった今は、77人の団員をまとめる立場です。引っ込み思案だった私が、先頭に立ってみんなをまとめるなんて、想像もしていませんでした。

今夏には、一人で学外のボランティア団体に応募し、東日本大震災の被災地へボランティア活動にも赴きました。今では初対面の人と話すことも、たくさんの人と協力し合うことも大好きになりました。

だれかの小さな助けによって、大学生活も自分自身も大きく変えることができる実感した3年間。今、思い悩んでいる人もきっと自分を変えるチャンスがあるはず。そう励ましたいですね。

*オリター：新入生が大学生活にスムーズに馴染むためのサポートを行う、学部毎に配された学生主体の団体。

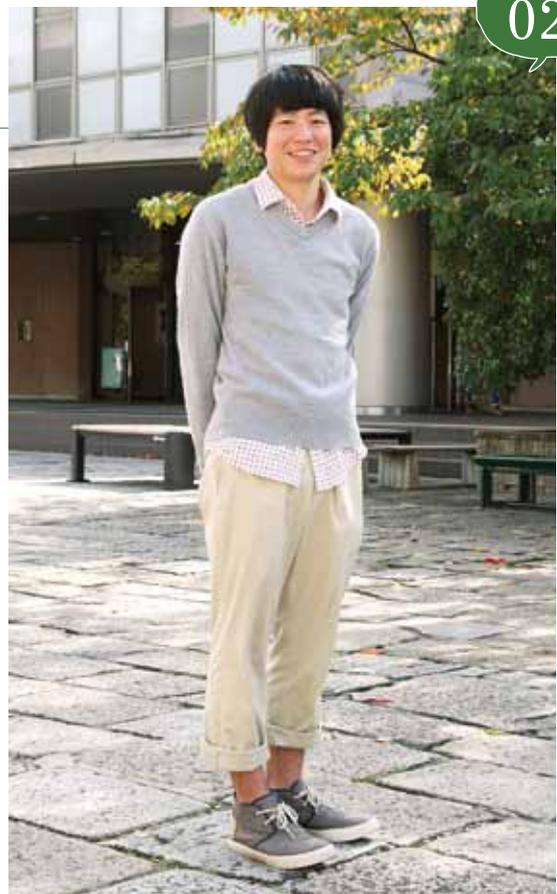
アルバイトに忙しく、勉強もできなかった。 今は学ぶことが楽しくて仕方がない。

産業社会学部3年生 井上健吾 さん

大学に進学すると決めた時から、授業料や一人暮らしにかかる生活費は自分でまかなおうと考えていました。しかしそれは、容易なことではありませんでした。新聞奨学生として朝夕の新聞配達の上に残業をこなし、さらにアルバイトを掛け持ちする毎日では、大学に通うこともままなりません。その上勉強にも行き詰っていました。念願だったスポーツ社会専攻に進学したものの、学問領域が想像以上に広く、目移りするうちに自分が何に関心があるのかすら、わからなくなってしまったのです。「一体何のために大学に入ったんだろう」。だんだん意欲を失っていく自分を感じていました。

3年生になった時、「このままでは本末転倒だ」と思い、とうとう家族に助けを求めました。心苦しかったけれど、いざという時の家族の存在はありがたかったですね。これまで思うようにできなかった分、今は勉強が楽しくて仕方がありません。スポーツと広告との関わりについて学ぶゼミを選択。グループで研究し、論文にまとめた成果を近々発表するため、今は準備に追われています。積極的に学べば、自然と関心も明確になってくるものです。スポーツ社会学に加えて、僕がそうだったように、やりたいことを見つけられずに足踏みしている若者の背中を押すような活動に取り組んでみたい。そんな思いも膨らんできました。

入学当初の約束を守れず、何度も口論した母が、最近の僕を見て、「本当にがんばっているね」と言ってくれるようになったんです。それが一番嬉しいですね。



CASE

02



「オール英語」の授業についていけない。 自分の英語力の未熟さを痛感。

国際関係学部1回生 正木香名さん

大好きな英語の力を伸ばしたくて、高校時代に1年間、ニュージーランドに留学。世界がグンと広がるのを肌で感じて、もっと本格的に語学力を身につけたいと考えるようになりました。「どうせなら英語漬けの環境で勉強したい」。国際関係学部の中でも、すべての授業を英語で受ける「グローバル・スタディーズ専攻」への入学を決めました。

入学して早速ぶつかったのは、「英語」という大きな壁。高校時代の留学で得た程度の英語力ではとうてい太刀打ちできないことは、すぐわかりました。先生の話す英語を聞きとるだけでは授業についていくことはできません。例えば「国際関係」や「環境問題」といった講義のテーマやその背景を英語で自分のものにしておかなければ、講義の内容を理解できないからです。ディスカッションの機会もたくさんあります。意見を言いたくてもとっさに言葉が出てこず、何度も悔しい思いをしました。

授業についていくには、とにかく勉強するしかありません。授業で進む数十ページ分を事前に読み、わからない言葉や背景を調べ、自分の意見を言えるよう準備して、授業に臨む日々。片道2時間の通学時間、帰宅後も深夜まで、眠さえあれば教科書を広げています。

けれど、しんどいことばかりではありません。イギリス、オーストラリア、中国、韓国、シンガポールにタイ、ウガンダなど世界各国の友達ができしたのは、この専攻に進学したから。故郷を遠く離れて勉強する彼らを見てると、くじけてなんかいられません。来年は韓国に留学する予定。4年間、思う存分「世界」を学ぶつもりです。

自分の関心を突き詰める学びの中で やりたいことが見えてきた。

政策科学部3回生 石山大晃さん

高校生の頃、市町村合併や行政の仕組みに興味を持ち、初めて自分の身近なものとして地域の問題を考えるようになりました。

フランスのまちづくりに関心を持ったのは、去年フランスへフィールドワークに行ったことがきっかけです。市街地に歴史的な建物や文化財が数多く残り、それらが住居や商店として今も使われているところは、京都と共通点があります。しかしそれを保存するための法律や制度は、日本とフランスでは異なるんです。そこに関心を持ち、研究を始めました。フランスでのフィールドワークは本来2回生を対象としたものですが、先生に願い出て今年も参加。リヨンで、役所を訪ねて制度を調べるなど、日本では手に入らない現地の資料を集めてきました。

地域の行政に関心を持ったことからフランスのまちづくりを研究することになるなんて、入学当初は考えてもみませんでした。自分の興味に従って目の前の疑問点を突き詰めていく。自分が本当にやりたいことは、その過程で見えてくるのではないのでしょうか。

今は、さらに大学院へ進学しようかと考えているところ。とはいえ、同じゼミの友達には、日本の地方行政を研究したり、公務員試験の勉強を始めた人、学んでいることを実社会や自分の将来に直結させている人が多いんです。そんな中で、学術的に研究を深めていくことに、迷いがありません。就職活動も並行しながら、これからじっくり進路を考えていくつもりです。



CASE
05

大学に慣れ、気が緩んだ時期も。 中国留学を目指す今は勉強にも真剣。

文学部1回生 丸藤詩織さん

立命館大学に進学を機に親元を離れ、同じく京都の大学に進学した兄と一緒に暮らしています。中国人の母の影響で、日本語だけでなく中国語にも親しんで育ちました。「母の母国についてもっと知りたい」という思いから、中国文学を勉強しようと考えています。

入学当初は張り切っていたものの、気が緩み始めたのは、大学にも慣れた7月頃から。次第に朝起きるのが億劫になり、「1回くらい、いいや」などと、不慮の事態に備えて数回の欠席が許されている授業を休んでしまうこともありました。一方で楽しくて仕方がないのは、友達と過ごす時間。立命館大学には海外からの留学生が多く、外国人の友達もたくさんできました。友達の家に集まって鍋パーティをしたり、それぞれ故郷の料理をふるまったり。そんなことにばかり夢中になり、いつの間にか大学は二の次になってしまっていました。

もし一人暮らしだったら、そのままサボってばかりの大学生活になっていたかも…。それを押し留めてくれたのは、一緒に暮らす兄の存在でした。朝、起きられない私に「1限は9時からだぞ」とひと言。博士課程に進学し、研究にいそむ兄の背中を見て、「何のために大学へ来たんだろう」と、我に返りました。友達との時間も大切にしながらも、授業や勉強と真剣に向き合うようになったのは、それからです。

中国留学にも挑戦したい。立命館大学は留学制度がとても充実しているんです。中国屈指の難関大学に留学する道があると知り、今は留学基準をクリアするための勉強にも励んでいます。

夢の形は一つじゃない。 多様な映像ビジネスに触れ、視野が広がった。

映像学部3回生 塚越勇太さん

高校で放送部に所属し、番組制作を経験したことから、「将来は映像に関わる仕事に就きたい」と思うようになりました。夢は映像クリエイターだったけれど、それが簡単に手にできる職業でないことも感じていました。でもあきらめたくなかった。それなら作品を流通させたり、コンテンツを企画するといった方面から映像に関わる道もあるのではと思い、映像学部に進学しました。

入学して最初に突きつけられたのは、映像ビジネスの厳しさです。「夢ばかり思い描いていても通用しない。社会人として恥ずかしくない力をつけなければ」と実感。現実を知ったことで、かえって視野が一気に広がりました。映像学部には、企業と連携し、実際のビジネスやプロジェクトに関わることのできるプログラムがあります。僕はやる気に任せていくつものプロジェクトに参加。おかげで、寝る間も惜しいほど忙しい日々を送ることになってしまいました。学生にとっては課題の一つでも、企業にとってはビジネスの一環です。中途半端な対応は許されません。契約や金銭に関わる問題に発展するかもしれないと思うと、精神的にも追い詰められました。無事終わった時はさすがに疲労困憊。けれど自分たちで考え、取り組んだことが現実社会の中で生かされる達成感は、他では味わえないものでした。

夢の形って変化していくものなんですね。高校時代に描いた夢とは違ったけれど、その分多様な領域に関心を広げることができた。これからもおもしろいことに出会えるはず。そんな期待にワクワクしています。

CASE
06



学術イベントの企画・運営に関わり 机の上では学べない多くのことを得た。

経済学部3回生 櫻田育弥 さん

実家は岩手県。父や母の許しを得て、はるばる関西の大学に進学したのだから、「大学では勉強することを最優先に考えなきゃ」と思っていました。興味を持ったのは、「計量経済学」という分野。例えば、アンケート調査から人の「幸福度」を10段階で測り、主観的幸福度には、どんな要因が影響を及ぼしているのかを考察します。目に見えない現象や人の心理を経済学的手法で「目に見える」数値に置き換える。そんなところがおもしろいと感じています。

とはいえ、もしこのまま授業と勉強だけの毎日だったら、大学生活は味気ないものになっていたかもしれません。そうならなかったのは、友達に誘われて、「経済学会学生委員会」という団体に入ったことが大きいですね。これは、講演会やゼミナール大会といった学術的なイベントを企画・実行する団体。「イベントには参加するもの」と思っていた私にとって、「イベントを主催する」という経験は、とても新鮮でした。

今年、卒業生のための卒業パーティを開催したことは、忘れられません。会場探し、プログラムの決定、当日の進行まで、中心メンバーとなって企画や運営に関わりました。別れ際、先輩たちから「楽しかった」「ありがとう」と言ってもらった時は、なんだか胸が熱くなりました。

イベント前は、毎日夜遅くまでミーティングや準備が続くため、勉強時間をやりくりするのは簡単ではありません。けれど、委員会活動を通して、一人で机に向かうだけでは得られないたくさんのおもしろいことを学びました。それもきっと、かけがえのない財産になると思っています。

迷いながらも全力で打ち込めば 必ずおもしろいことを見つけられる。

経営学部3回生 長谷川雄一 さん

正直なところ、明確な目標を持って大学に入学したわけではありません。「大学で勉強するうち、自然とやりたいことも見つかるだろう」。そんな風に考えていたんです。小・中・高校時代は、陸上部に所属。中学時代には800mと駅伝で全国大会に出場しました。しかし高校1年時の不慮の事故で頸椎を損傷、その後復帰し精一杯頑張りましたが、陸上の道は断念せざるを得ず、大学では陸上競技の継続は考えませんでした。

けれど熱中できるものがない学生生活は、空虚なものでした。授業を受けても、アルバイトに精を出しても、どこか楽しめなくて。「充実しているのかな?」「陸上を続ければよかったかな?」と、いつも自問自答しながら2年間を過ごしてきました。

迷いの中でも勉強は一生懸命取り組もうと思い、アカウンティング・ファイナンス系を選んだ時は「何となく興味を持った」という程度でしたが、勉強するうち「金融」が面白くなり、2回生の時にファイナンシャル・プランナーの資格を取得。目下の目標は、証券ゼミナール大会出場です。ゼミの仲間3人と協力して、夏休みに「証券化」をテーマに論文を書き上げました。12月の発表に向け、今はプレゼンテーションの資料づくりや発表のリハーサルに忙しい毎日を送っています。

迷いがすっかり消えたわけではありません。将来どんな道に進むべきか、今はまた新しい悩みも出てきました。それでも、自分の関心を手繰り寄せ、それに懸命に打ち込めば、きっと道は見えてくる。最近そう思えるようになってきました。



CASE
09

自分が何をしたいのか 考えた末に大学院進学を決意。

理工学部3回生 鳥居邦之 さん

「ロボットを作りたい」。最初はそんな単純な動機から、ロボティクス学科を志望しました。授業で理論を学ぶ一方、それを実行に移すべく、門をたたいたのが、「ロボット技術研究会」。研究会では、学生自らロボットを作り、「ロボットコンテスト」などに出場しています。「とうとうロボットを作れる」。そう思うと、ワクワクしましたね。

ロボット製作は、設計図を描くことから始まります。ロボットはすべて手作り。部品を電動ノコギリで削り、センサなどの制御機能を付け、プログラムを組み込んでいきます。実際に自分でロボットを作ってみて、とりわけロボットを動かす要となる「制御」がおもしろいと思うようになりました。

ロボット作りを楽しみながらも、入学してからずっと悩み続けてきたのが、進路のこと。勉強がおもしろくなるにつれ、大学院へ進学してもう少し専門的に研究してみたいという気持ちが強くなってきました。けれど進学すれば、社会に出るのが遅くなる上、金銭的にも大きな負担を抱えることになります。しかし、決めかねている本当の理由が他にあることは、自分でもわかっていました。それは将来のビジョンが見えないこと。大学院で何について専門性を深めるべきか、それを将来どう生かしたいのか、自分の進路をはっきり見出せずにいたんです。一度は就職活動を視野に入れ、就職ガイダンスにも参加しました。考えに考えた末、思い至ったのは「やっぱりもう少し勉強したい」という気持ち。自分の本心にたどり着いて、ようやく大学院進学に挑戦しようと決心しました。

やりたいことが多すぎて時間が足りない。 時間や体調を管理する力も必要と知った。

情報理工学部3回生 谷端奈央子 さん

小さい頃の夢は、通訳になること。ところが小学生の時、「テクノロジーが発達して将来は通訳もロボットが行うようになる」という話を聞いて、「ロボット」に興味を持ちました。それがやがて「人工知能について勉強したい」という目標につながっていきました。

現在は、人工知能について勉強する一方、ロボット製作を行うプロジェクト団体に所属。私が所属するロボカップシミュレーションリーグ部門では今年、トルコで行われた「ロボカップ2011世界大会」出場も果たしました。ずっと夢見てきたロボットや人工知能を作ることに、今はすっかりとりこになっています。

3回生になって専門的な学びが増え、遅くまで実験やレポート作成に追われることが多くなってきました。加えて、来年に1ヶ月間、インドに短期留学することを決心。留学資金をまかなうべくアルバイトも始めました。直面したのが、「時間が足りない」という問題。授業や課題、アルバイトにプロジェクト団体の活動と、やらなければならないことに追い立てられ、疲れ切ってしまうこともありました。挑戦するのは楽しい。でもきちんと体調やスケジュールを管理できなければ、何もかも中途半端になってしまいます。自分を知ることも大切だと思いました。

ずっと同じ目標を持って学んできたけれど、最先端の研究に触れたり、ロボカップを経験し、視野が世界に広がりました。そこでかえって気づいたのが、日本の技術力の高さです。将来は、世界に誇れる日本のメーカーで開発に携わってみたい。そんな新しい夢が見えてきました。

CASE
10



第一志望に落ちたことを引きずっていた。 今日の前にある道を進む大切さに気づいた。

生命科学部3回生 杉本菜々さん

大学受験の時、実は、立命館大学は第一志望ではありませんでした。行きたかった国立大学の入試に落ち、立命館大学に進学したんです。けれど、心のどこかで国立大学に行けなかったことをずっと引きずっていました。国立大学に進学した友達から「勉強が忙しい」という話を聞くと、「私はこんなのにのんびりしていて、いいのかな」と、焦りが募って…。日々の予習・復習はもちろん、テスト前にはテスト範囲以外も全部見直したりと、今思えば少し無理をしていたかもしれません。

変わったのは、3回生になってから。実験や専門的な授業が増え、勉強がおもしろくなってきたんです。特に高分子化学に強く惹かれました。何より、実験の授業で出会ったTA^{*}が立命館大学の研究室での充実した研究について話してくれたこと、また私と同じ経験を持つ先輩が生き生きと学生生活を送っている姿を見たことなどがきっかけです。同じ思いをしながらも、今の環境で精いっぱい努力し、専門を究めようとしている先輩を見て、自分がこれまで後ろばかり振り返っていたことに気づいたんです。「目の前にある道をちゃんと見なくちゃ」。その時、ようやく前向きになることができました。

実家は農業を営んでいます。大学に進学する時、「好きなことをしていよ」と、送り出してくれた両親の思いやりを今改めて感じています。今年の夏休みに食品関係の研究所でインターンシップを経験し、農業の課題や可能性に目を向けるようになりました。「高分子化学の研究を深めて、将来、農業に役立てたい。学んだ成果で両親に恩返しできたら」。新しい目標ができ、しっかり前を見すえて歩き始めています。

※TA：ティーチングアシスタント。本学の授業や教学活動をサポートする大学院学生。

想像とはかけ離れたハードな勉強の日々。 友達がいるから乗り越えられる。

薬学部2回生 池田剛久さん

高校の進学説明会で、「これからの時代は資格を持っていると強い」という話を聞いて、国家資格を取得できる薬学部に興味を持ちました。とはいえ当時は、大学生活がどんなものかわからず、漠然と想像していたにすぎません。しっかり勉強をしながらも、アルバイトをしたり、友達と遊んだり、「自由を謳歌して、きっと楽しいだろうな」などと、気楽に考えていました。けれど大学で待っていたのは、そんな甘い想像とはかけ離れた生活でした。

とにかく勉強が忙しいんです。朝から夕方までびっしり授業が詰まっているのは当然のこと、次々に課題が出され、放課後も夜遅くまで机に向わなければなりません。2回生になって実験などの授業が増え、ますますハードになってきました。授業の後は毎日図書館にある自習スペースに直行。閉館時間ギリギリまで教科書を読んだり、レポートを書いたりしています。中学・高校と野球、ソフトボールを続けてきましたが、いつしか思っきり走ることもなくなっていました。

「こんなはずじゃなかったのに」などと愚痴を言いながらも、その実、そんな大学生活をどこかで楽しんでいるのは、友達の大いさですね。薬学部で出会った友達は、目標も苦しいことも共有する仲間。毎日みんなで図書館に向かい、テスト前には一人暮らしの友達の家に集まって一緒に勉強しています。目標は、全員で国家試験に合格すること。最近、授業の合間に野球をしたり、アルバイトをしたり、勉強以外の楽しみも作れるようになってきました。



CASE
13



※土足厳禁。特別に許可を得て撮影しています。

怪我でプレイヤーを断念。 人との出会いで新しい道が開けた。

スポーツ健康科学部2回生 西上まなみ さん

中学でサッカー、高校でハンドボール、大学ではラクロスと、ずっとスポーツを続けてきました。スポーツ健康科学部に入学したのも、好きなことを専門的に学びたかったからです。そんなスポーツ中心の生活が一変したのは、去年の夏休みのこと。クラブの練習中に怪我をしてしまい、プレイヤーとしての活動は難しくなりましたが、何らかの形でスポーツに関わりたいという気持ちは変わりませんでした。整体師の資格を取得するなど道を模索したものの、「これだ」というものに出会えなくて。次の一步を踏み出せずにいたんです。

「市の観光大使を募集しているらしいよ。挑戦してみたら?」。そんな私を見かねてそう勧めてくれたのは、母でした。母に背中を押されて応募したところ、幸いにも合格し、1年間、地元の市の広報活動に携わることに。これが転機になりました。人との関わりが新しい道を開くきっかけになるものなんですね。誘われてモデルのアルバイトを始めるなど、それまで考えもしなかった世界に活動範囲が広がっていきました。

モデルを経験したことで、「健康的に、美しい体をつくる」ことに関心が向くように。「いつか女性の美しい体づくりをサポートする会社を興したい」。そんな大きな夢ができた途端、勉強への意欲もがぜん湧いてきました。現在は、健康運動指導士の資格取得も目指しています。

大学で目標を見失うこともあります。そんな時、家族や周囲の人と関わる中で、また新しい目標や関心を見つけられる。それがわかったから、これからはどんなことも前向きに乗り越えていけそうです。

INFORMATION

各学部へのお問い合わせはこちら

学部事務室

学部・研究科の教務事務を取り扱うとともに、所属する学生と教員への様々な支援を行っているのが学部事務室です(教務事務とは授業や成績の管理、入学・卒業・休学・復学等の学籍の管理、学生証や各種証明書の発行等に関わる業務)。学部・研究科の開講方針に沿って授業を開講し、日々実施される授業の運営の支援をしています。履修上の相談や学生生活に関わる相談事については、学部事務室で対応します。この他に、学会や学部校友会にかかわる事務も取り扱っています。

[衣笠キャンパス]

• 法学部事務室	075-465-8175
• 産業社会学部事務室	075-465-8184
• 国際関係学部事務室	075-465-1211
• 政策科学部事務室	075-465-7877
• 文学部事務室	075-465-8187
• 映像学部事務室	075-465-1990

[びわこ・くさつキャンパス]

• 経済学部事務室	077-561-3940
• 経営学部事務室	077-561-3941
• 理工学部事務室	077-561-2625
• 情報理工学部事務室	077-561-5202
• 生命科学部・薬学部事務室	077-561-5021
• スポーツ健康科学部事務室	077-561-3760

学生生活を支える

親の心配、 子どものホンネ。

4年間、正課での学びや課外活動に全力で打ち込むことで、学生は着実に成長を遂げます。しかしその過程では、時に大きな挫折を味わったり、時に迷いや不安を覚えて立ち止まったり、どんな学生も壁を乗り越える経験を重ねています。かたわらで見守る父母の心配は尽きないことでしょう。

立命館大学で生き生きと学生生活を送り、ひと回り大きくなった学生と、父母が登場。学生の成長の陰にはどんな試練や父母の心配があったのか。ふだんの親子関係から父母の悩み、子どものホンネまでを語っていただきました。



進む道は子どもが決める 後方支援が親の役割

親 → 沼田好晴さん

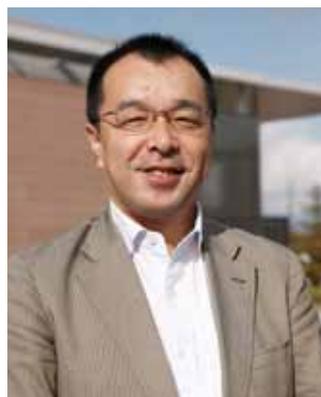
子 → 沼田未知さん(理工学部4回生)

case 1

小 学校4年生から、大阪で地域の陸上クラブに入っていた娘。陸上の面白さを知り、「中学校に進学したら、絶対陸上部に入る」と言っていたのに、引っ越し先の埼玉県の中学校には陸上部がありませんでした。どうするのだろうと思っていたら、教育委員会や校長先生に相談して、2年生から1人で陸上の練習を始めたんです。こんなに行動力のある子だったのかと、正直驚きました。隣の中学校の陸上部の練習に参加させてもらったり、個人参加できる競技会を自分で探してきて出場したり。近所の東洋大学のグラウンドでも練習させていただきました。親同伴という条件付きだったので、平日は妻と一緒に行っていました。「子どもが自分で決める」ことを大切にしていたので、娘が決めたことに親が付いて回るという感じでした。

高校も、強豪陸上部のある立命館宇治への進学を自分で決めました。埼玉の実家を出ての寮生活になってしまいますが、反対する余地はなかったですね。「甘えるための逃げ場を作らないように」という先生の助言を聞いて、3年間はなるべく連絡しないよう心がけました。おかげで自立心が芽生えたように思います。親に相談したいこともあったでしょうが、頼ってくることはあまりありませんでした。大学に入ってから、ふつうに電話がかかってきます。人生相談は妻、勉強や実務的な話は父親の私と分かれていて、娘と同じ専門書を買って、電話口でページをめくりながら一緒に勉強したこともありました。もちろん私の人生と娘が経験してきたことは同じではありません。娘の悩みを押し量りながら聞いてやることもたくさんあります。

卒業後も実業団で走る予定ですが、親からすると、いつまで走れるのかという不安はあります。けれど親が「こうしなさい」と言った通りに子



どもが従ったとしても、おもしろくなくなったり、行き詰ったりした時にはきっと責任転嫁してしまうでしょう。すべて彼女が決め、どうなっても結果はすべて自分の責任。親は助言や経験談を語るにとどめて、自分で切り開いてゆく人生を歩んでほしい。子どもが進みたい道に障害が立ちはだかった時、後方支援に徹しながら見守っていくのが親の役割だと思っています。

子どもの声

高校から家を出て寮生活をすると聞いた時も、大学の学部を決める時も、今まで私がしたいと言ったことを親に反対されたことはありません。金銭的なことも含めてただ黙って助けてくれました。今まで陸上を続けてこられたのも親のお陰です。春から実業団の一員になりますが、会社にはもちろん、親に対しても、今まで以上に結果を出さなければと感じています。



自分の頃のことを振り返り、 見守ることを大切に

親 → 上間康代さん

子 → 上間圭祐さん(情報理工学部2回生)

case 2

息子は男ばかり三兄弟の長男。真面目で一生懸命な性格で、自分からあまり話さないタイプです。親としては聞きたいこともあります。基本的には好きなことをさせ、見守ることを大切にしてきました。大学受験に失敗して浪人が決まった時も、「来年がんばればいいんじゃない」と言う程度で、陰ながら応援するようにしていました。私も浪人した経験があるので、「この一年で成長できる。長い目でみたらほんのちょっとのことだから、そこで大きくなれるならいいかな」と前向きに考えていました。自分が同じ年頃だった時のことを振り返ると、子どものことも落ち着いて対応できるものですね。



立命館大学に入学が決まると、沖縄から1人で滋賀まで行き、一人暮らしする家を決めてきました。なんだか少し頼もしくなったように見えました。2回生も後半になりましたが、実は入学して息子の方から親に電話があったのは一度限り。しかも「洗濯機のスイッチが分からない」というものでした。様子が気になれば、夫と「最近声聞いてないよね。元気かな」と、電話やメールをするなどこちらから連絡を取るようになります。

大学に入って息子が始めたのは、演劇。口数も少なく、あまり感情を表現しないと思っていただけに、驚きました。サークル活動の拠点は衣笠キャンパス。往復の時間だけでも結構かかりますし、勉強の時間が減るので多少心配しています。でも、親が口出ししすぎると反発したくなる、という気持ちも分かるので、こちらも「単位は大丈夫なの？」と聞く程度にとどめています。何かあっても、結局は本人が乗り越えなければなりません。心配ばかりせず、子どもの将来を楽しみにしようと思っています。私たち夫婦共に学校の教師なので、「将来役に立つから教職課程は取っておくといいよ」と言ったのが唯一の助言です。素直に1回生から単位を取っているようですが、今は色々な人と出会い、経験をして学生生活を楽しんでほしい。その先で、自分の好きな仕事を見つけてくれればと願っています。

子どもの声

両親には金銭面で頼りっぱなし。やりたいことは好きにやらせてもらっているので、逆に自分でやり過ぎてしまわないようにブレーキをかけなければいけないという意識が高くなりました。今、演劇サークルの役作りでヒゲを生やしています。サークル活動のために衣笠キャンパスへ通う往復の車中も無駄にせず、心配されている勉強もがんばりたいです。



どんな道でも応援していると 伝えることの大切さを実感

親 → 中里光江さん

子 → 中里千尋さん(映像学部4回生)

case 3

娘は末っ子らしく、気持ちの向くまま、自由闊達に行動する子どもでした。一方で、ふだんは明るく振る舞い、のびのびやっているように見えて、実は心に不安や鬱憤をため込んでしまう繊細なところがあり、親としては、そうした子どもの心の奥の気持ちを推し量りながら、関わってきました。思春期の頃に反発したり、大学受験を前にして、ナーバスになったりしたことも。そんな時、つい口を出して口論になったこともあります。基本的には「やりたいことは、自分で考えて決めなさい」と言って聞かせてきました。

大学では、オリター団に所属。それまでは末っ子で人にやってもらうことの多かった娘が、新入生の面倒をみることで、周囲の人を思いやるようになってきました。また持ち前の行動力で、ニュージーランドやラス



ベガス、韓国で短期留学を経験。戻ってくるたびに視野が広くなり、人への対応も柔和になって…。親に対しても言葉を選んで話す気遣いを見せるようになりました。広い世界を見て、多くの人と接して、成長しているんだと感じます。

そんな娘にとって大きな試練だったのが、就職活動です。厳しい就職状況の中、ずいぶん苦戦した様子。最終面接で落とされることが続いた時は、さすがに参った

声で「またゼロからやり直しだ」とつぶやくこともあり、見守ることしかできない私たちも辛かったですね。ようやく内定が決まった企業は、当初娘が志望していた業界ではありませんでした。心から納得した企業に就職してほしい。そんな親心から「本当にこの会社でいいの？」と尋ねたんです。言った途端、娘は泣き出してしまいました。「何もわかってない！」と。娘なりに考えた末に導き出した決断を、私たち親が納得できないと思ったのかもしれませんが。この時ばかりは娘の気持ちをくみ取れなかったことを反省しました。たとえ失敗したとしても、それが糧になる年齢です。どんな選択も、娘が選んだ道なら応援してやるつもりでしたが、その気持ちをきちんと伝えることも親の務めなんですね。今、前向きに将来を見据えている娘をこれからも変わらず見守っていくつもりです。立命館大学で数多くの人に育てていただいたことを忘れず、それに報えるよう社会人としても成長してってほしいと願っています。

子どもの声

マメに連絡したり、気持ちを素直に表現するのは苦手。でもなぜか両親には伝わってしまうみたいです。困ったなと思っていると、決まって「大丈夫？」と連絡をくれます。就職が決まった時、思い切り泣けたのも、両親なら分かってくれるという安心感があったからかもしれません。全力を尽くし、納得して決めた就職先。これからもずっと働き続けたい。今は新たな意欲が湧いています。



社会で活躍する 校友インタビュー



フランス洋菓子専門店 W.Boléro (ドゥブルベ・ボレロ) オーナーシェフ

渡邊雄二

さん (1989年 経営学部卒)

Yuji Watanabe



のどかな田園風景が残る滋賀県守山市。琵琶湖のほとりのこの小さな町に、全国のスイーツ通を魅了する店がある。フランス洋菓子専門店のW. Boléro(ドゥブルベ・ボレロ)だ。09年より、フランス発チョコレート祭典「サロン・デュ・ショコラ」に出店。名立たる海外の高級チョコレートブランドと軒を連ねる、数少ない日本人シェフの店として注目を集める。シックで華のある装いに、深みのある味わい。一度口にすると忘れられない同店の菓子の数々は、オーナー・渡邊雄二さんの手から作り出されている。

「食のアート」の世界に触れ 菓子作りの原点に

実家が洋菓子店だったので、小さい頃から自然とお菓子作りをするように。厨房デビューは中学1年生の時でした。ただ、そのままお菓子の世界に向かっていったわけではなく、高校生の頃は音楽にのめり込んでいたのです。受験寸前までバンド活動に打ち込んでいたのですが、「大学受験に通らなければ、高校を卒業したらすぐに(菓子職人の)修行だ」と親から言われ、音楽に打ち込める自由を手に入れたくて、それまでと一変して無我夢中で受験勉強に取り組みました。「音楽の土壌豊かな京都で学生生活を送

れる！」と、立命館に合格した時はとても嬉しかったですね。

大学入学後は勉強以外、音楽一色の日々を過ごしました。楽器や機材を買うためにアルバイトをしてお金をためて、仲間たちと練習々々。学生時代という貴重な時間を余すことなく好きなものを突き詰めるために費やすことができたと思います。

卒業後の進路についても音楽を仕事にすることを真剣に考えていましたが、やればやるほどその難しさを感じるようにもなりました。両親の願いもあって、最終的には菓子職人の修行に出ることを決心し、鎌倉の有名洋菓子店に就職したのですが、そこで出会った師匠のお菓子の世界に強いカルチャーショッ

クを受け、怒涛のごとくその世界に引き込まれていったのです。師匠の作るお菓子は「食のアート」。思いがけない世界観に触れ、それまで音楽に注いでいたパワーをそのままお菓子に移すように、菓子作りの原点に戻って勉強に没頭し始めました。

お菓子というのは、伝統も頑としてあるけれど、新しいものも求められる世界。定番もありますが、常に新作を出さなければならない。それはミュージシャンも一緒です。曲をアレンジするのはお菓子を構成するのによく似ていて、頭の使い方が同じなのです。音楽とお菓子がこんな風につながるなんて思ってもみませんでした。二つの共通性に気付いて「この道だ」と確信しました。

「お菓子は大人が楽しむもの」 —菓子本来の姿を追い求めて—



修行を始めて2、3年経ったある日、師匠から「フランスで修行してみないか」と声をかけていただいたことがありました。けれど、当時の私をもっと師匠のお菓子を学びたいという一心で、即座にお断りしてしまいました。数年後、初めての海外旅行でパリに行った時のこと。街の中を当てずっぽうに歩き回っていると、偶然にも、以前修行に誘われた店に遭遇したのです。それをきっかけに「あの時もしフランスに行っていたら、今どうなっていただろう」と考え込むようになってしまいました。チャンスが来た時に食欲にトライしなかった私はフランスで修行する機会を逃してしまいました。「そんな自分にできることは、トップとして、日本で仕事をしながら、いかにフランスらしさを絶えず吸収していくかだ」。コンプレックスから、今につながる新たな目標を持つことが出来たのです。

自分を信じる気持ちが 壁を乗り越える力に

鎌倉での修行を終えて帰郷し、実家の店で職人の道を歩み始めたのですが、その時代そしてその土地では、お菓子と言えば「子供たちのためのもの」という考え方が当たり前でした。けれど私は、お菓子は子供のためのものとは考えていません。お菓子がヨーロッパでどのような位置づけにあるかという「大人の世界」。ヨーロッパでは、お菓子は本来特別な時に食べるものです。京都の老舗和菓子店の生菓子などもやはり同じで、日本にも元々そういう菓子文化がある。しかし、日本における洋菓子というのは、戦後、GIが子どもに配ったチョコレートに由来するのでしょうか、子どものご機嫌取りのためのもののように始まってしまった。私が目指すお菓子の前に、日本の洋菓子のあり方が大きく立ちはだかりました。

独立するまでには、研究のために様々な店のお菓子を食べ歩きました。すると自分が作るものと、東京やフランスの有名店のものとの差が格段に縮まっているように感じられたのです。むしろ自分のお菓子の方がおいしいんじゃないかと思うこともありました。手応えは十分ある。実家の店と自分が考えるお菓子とは方向性が異なる。だったら、新しいコンセプトで、新しい店で、一からスタートして自分のお菓子をお客様にお伝えしよう。「私のお菓子は必ずお客様を喜ばせることができる」と独立を決めました。

店を構えたのは妻の出身地。静かな、地方の町で、たくさんの人が行き交うような都会ではありません。でも、この場所でも店を成功させる自信がありました。なぜなら本当に食べ物に魅力があれば、それを目的にやってくる人が必ずいると信じていたからです。日本では、世界で腕を磨いたシェフの店が東京に集中するという時代がありました。しかし、日本でも世代が変わり、きっと地方の時代がやってくるだろうと私は思っていました。いまやもう、地方に素晴らしい店があることは珍しくありません。世間に迎合することなく、洋菓子を取り巻く世界が成熟してきたことの表れだと思っています。

日本の洋菓子の歴史の中では、現在もまだ過渡期。私は「お菓子は大人が楽しむもの」と信じてやってきましたし、これからもやっていくつもりです。10年前はまだ社会に受け入れられなかったこの方向性が、ようやくいま証明されつつあると感じています。

出来る限りの表現を尽くして 思いを伝える

菓子作りで大切にしているのは、まず「材料」。素材本来のおいしさを生かす方法を探し、今使っている材料よりさらに上質のものを吟味し続ける。二つ目は「鮮度」。出来上がってから時間の経過が少ないものをお出しできるように、お客様の来店時のピーク時にお菓子が出揃うようにしています。

新作は、季節の素材や色合いなど必要性を考慮して作る場合もあれば、自分が観た映画作品からのイメージなど、まったくお菓子と別の世界からアイデアを得て作ることもあります。創造性が求められる時、と

にかく引き出しは多い方がいい。いろんなものに好奇心を持っている方が、広がり生まれる。大学卒業後も、いつまでも情熱を持ち続け、成長し続けるには、探求する気持ち・チャレンジ精神を忘れてはならないのです。

お菓子そのものだけでなく、店の雰囲気作りも重視しています。建物や庭といった店の外観・内装から、スタッフの菓子作りへの姿勢、接客対応まで、出来る限りの表現を尽くさねば、お客様に当店のお菓子を伝えきれない。特に、スタッフの教育には真剣にあたります。自分の弟子には将来店を持ってもらったり、ヨーロッパで経験を積んでももらったり、ここを卒業した後には世界に通用する一流の人になってほしいですから。

次の世代のために パイオニアとして進み続ける

高い志を持ち続けていれば、日本にいないが海外で研鑽を積むのと同等あるいはそれ以上のレベルに高めることができるし、本物のもの作りをしていけば、都会でなく地方でもやっていける。そんな自分なりのスタイルで思い描いた人生を実現させることができるという証明者になりたい。後に続く人たちのためにも、私たちの世代はパイオニアになるべき責任があると思っています。



わたなべ・ゆうじ

89年、立命館大学経営学部卒業。同年、洋菓子店「レ・ザンジュ」に入社し、三輪壽人氏に師事する。04年、フランス洋菓子専門店「W.Boléro」を創業（現職）。今冬も、東京・京都で開催される「サロン・デュ・ショコラ」への出店を予定している。



秋のオープンカレッジ

2011年11月19日(土)、今年も衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパス(BKC)で、秋のオープンカレッジが開催されました。朝から秋雨が降りしきるあいにくの天候の中、両キャンパスを合わせて1440名ものご父母が来場しました。各学部別に行われた全体会、そして個別懇談会では、大学での学びや進路・就職について、熱心に耳を傾けるご父母の姿が見られました。学部別にさまざまな情報を提供し、ご父母の期待や関心、心配に応える良い機会となりました。

法学部

College of Law

法学・政治学を学んだ知識と思考が 多様なフィールドでの活躍を可能にする

全体会では、二宮周平法学部長が挨拶し、学部教育について述べました。「法学部では、『学びマップ』という冊子を入学者全員に配布。4年間の学習計画や進路について記入してもらい、担当教員が時折それを見てアドバイスします」と紹介し、「本学部生には、法学・政治学を学ぶことによって、当事者の声に耳を傾け、紛争や対立の背景にある利害関係を認識し、公平に調整できる力を育ててほしい。それが社会に出て役立つ力になり、個性となります」と話しました。また、「学生は悩むもので

す。しかし、なかなか弱みを見せない年頃です。しんどそうだなと思ったら声を掛けてあげてください。ただしその時は、説教せず、悩みをそのまま受け止め、背中を押すようにアドバイスしてあげてください」と、ご父母の支援をお願いしました。

続いて、望月 爾副学部長が大学院について説明。「法学研究科とは、法学・政治学の専門知識をより実質的なものとし、特定の研究を中心とした研鑽を通して、専門性を確実に高めていく場です。学生の多くは、法律のスペシャリストや就職、公務員



を目指します」と述べました。税理士資格を取って企業の税務部門で働く者、司法書士に合格して司法書士事務所で働く者、民間企業で国際法務に携わる者、他大学で教員になる者など、修了生の進路は多岐にわたります。最後に、東アジアの大学と協定を結び、院生間交流計画があることも報告されました。

学生の体験談の後に成績通知表の見方が説明され、その後、「就職・大学院進学」「成績・学習」の2グループに分かれて懇談会が行われました。

学生の体験談



「何とかなるよ」
母の言葉に支えられた大学生活

法学部4回生
株式会社みずほフィナンシャルグループ内定
山田沙也加さん

法務教官を目指して法学部に入学。夢につながる勉強やボランティア活動をするだけでなく、アルバイトやオリター、短期留学も経験しました。自分が法務教官に向いているのかを含め、進路について改めて真剣に考えた結果、多くの人に出会い、いろんな刺激を受ける仕事に就こうと決意。法律の知識も生かせる金融業界に絞って就職活動を行いました。振り返ると、悩みを相談するたびに言ってくれた「何とかなるよ」という母の言葉に助けられてきました。社会人になって、少しでも恩返しができたらと思っています。



親に悩みを聞いてもらうだけで
心が楽になった

法学部4回生
オムロン株式会社内定
松永一樹さん

就職活動には仲間の助け合いが欠かせません。しかし資格試験の勉強を続けていた仲間の中で、就職を希望したのは私だけ。就職情報をなかなか集められず、苦労しました。就職活動中は、精神的なダメージを受けることが多い上に、親からの無意識の期待も敏感に感じ取ってしまいます。まず、お子さんに支え合う仲間がいるか聞いてみてください。いない場合は、親御さんの支援が必要だと思います。相談されたら、ただ聞いてあげるだけでいいのです。私は親に悩みを話すだけで、心が楽になりました。



人と接して学ぶことは
将来のための貴重な経験

法務研究科1回生
法科大学院進学
山崎真夕さん

検察官を志して法学部に入学。勉強していくうちに研究者にも興味を持つようになりました。進路選択について、私と同じくらい悩み、いろいろ調べてくれたのが親です。最終的には、「ロースクールに進んで司法試験を受ける。その後からでも研究者になれるから」という結論を出しました。大学時代にやって良かったことは、一人暮らし、サークル、アルバイト、留学…。中でもサークルやアルバイトで人と接し、人間関係を学んだことは、将来もきっと役立つと思います。



あきらめずに活動することが
希望の進路につながった

法学研究科2回生
金融庁内定(国家公務員Ⅱ種)
植西勇太さん

学部生時代は司法書士を目指し勉強をするも上手く結果が出ず。将来について改めて考えると、人を支える仕事につきたいと考えようになりました。新たに進路を公務員と民間企業の併願にし、就職活動をしました。公務員の勉強はエクステンション講座を利用し、就職は企業セミナーなどに積極的に参加して情報収集しました。両方に取り組んだことで、自己分析をしっかりとでき、民間企業の採用試験、公務員試験の面接の両方で役立ちました。1回生の時に父が他界。一人で支えてくれた母には、これから親孝行していくつもりです。

産業社会学部

College of Social Sciences

多様な学問領域をまたいでアクティブに学び 「考える力」「社会で生きる力」を育む

全体会では、まず有賀郁敏学部長が、産業社会学部の学びについて言及しました。「社会学を軸に、多様な学問を結びつけながら、現代社会の課題を総合的に解決するすべを学ぶ学部です。しかしこれは、簡単なことではありません」と解説。学生の学びをいかに支え、「自ら考える力」を育めるかが教職員の課題として、「学生の学びと成長の質を高める教学づくりに教職員一丸となって取り組んでいきま

す」と決意を語りました。

次に、長澤克重副学部長からは学部の学びについて、より具体的な説明が加えられました。5つの専攻について解説した上で、学部の特徴として、「多様性」と「アクティブラーニング」を列挙。「高齢化、コミュニティの再生、教育、環境など現実社会の多様な問題に、専攻の垣根を超えて学際的にアプローチすることを可能にしています。さらに社会調査や地域連携などの



実践を通してアクティブに学ぶことも重視しています」と述べました。こうした幅広い学びを保証する一方で、少人数によるゼミ教育も強化しています。最終的に学びを一つのテーマに結実させる仕組みを整えていることも伝えられました。

続いて5人の学生によるパネルディスカッションが行われた後、グループ別懇談会が催されました。

パネルディスカッション



〈コーディネーター〉
産業社会学部
副学部長

瓜生吉則 准教授



産業社会学部5年生
株式会社NTT
ファシリティーズ内定

松本洋平 さん



産業社会学部4年生
住友生命保険相互会社
内定

弘田あゆみ さん



産業社会学部4年生
株式会社阪急阪神
ホテルズ内定

岡田裕央 さん



産業社会学部4年生
ニプロ株式会社
内定

持田美咲 さん



産業社会学部4年生
東日本電信電話株式会社
内定

笹野友弘 さん

正課・課外の活動を通じて 得たことが糧に

司会 まず学生生活を振り返ってください。

笹野 課外活動で、新入生を支援するエンター団に所属し、3年生では執行部も経験しました。一方専攻のスポーツ社会学もしっかり学んでいます。2年生から自主ゼミを立ち上げ、スポーツを用いた地域の活性化について現地を調査しました。こうした活動を通じて年齢や立場の違う多様な人と出会い、物事を多角的に見る力がついたことが収穫でした。

松本 私も、自主ゼミで環境経済学を勉強しています。その他印象に残っているのは、3年生の後期に受けた、全国の現役知事がリレー方式で講義する授業です。知事から現実の政策や環境対策について聞いたことが非常に勉強になりました。

岡田 私も累計5つの学生団体に所属し、学内外でさまざまな活動に参加しました。多くの人と出会い、多様な価値観に触れたことが今の糧になっていると思います。

持田 2年生の時、議員インターンシップに参

加。「学生時代に学んだことを話す」というテーマで街頭演説に挑戦したんです。その時、何を学ぶべきか、自分に足りないものは何かを真剣に考えました。そのおかげで、目的を持ち、その実現のために動く行動力を身につけられたと思います。

弘田 1年生は大学生活を楽しむだけで終わってしまった気がします。これではいけないと奮起してからは、短期留学、社会福祉士の資格取得など、多くのことに挑戦しました。

就職活動の途中は 挫折の連続だった

司会 就職活動はいかがでしたか？

松本 当初は公務員を志望していましたが、民間企業でインターンシップを経験し、「自分に合っているのはこっちだ」と方向転換。他社も最終面接まで進み、どちらに行こうかと迷いましたが、最終的には「10年後、20年後のキャリアビジョンを描けるか」を考え、今の企業に決めました。

笹野 当初の悩みは、進路を絞れなかったこと。

まずは業界や企業を研究し、「自分は何をしたいのか」を見極めることに時間を費やしました。自己分析を徹底した上でエントリーシートを出したので、面接になってからは比較的順調でした。

持田 私は4月頃、受けていた企業にすべて落ち、「持ち駒」がなくなったんです。しかも周囲では内定を得る友達も出てきて…。その時は、本当に辛かった。最終的には納得できる企業から内定を得たけれど、途中は挫折の連続でした。

見守り、支えてくれた 両親に感謝

司会 ご父母に一言お願いします。

弘田 両親は、あえて詳しいことを尋ねず、その一方で、私が辛い時には黙って愚痴を聞いてくれた。それが嬉しかったですね。

松本 就職活動中は、大阪や東京に通う日々が続きます。交通費など金銭的に支援してくれるのもありがたいですね。

岡田 ご飯を作って待っていてくれたり、洗濯してくれたり。生活を支えてくれる両親なしには乗り切れなかったと思っています。

国際関係学部

College of International Relations

「グローバル・スタディーズ専攻」新設を機に 語学・国際教育のさらなる向上を目指す

全体会では、挨拶に立った板木雅彦学部長から、2011年4月、新たに「グローバル・スタディーズ専攻」を開設し、2専攻体制がスタートしたことが報告されました。「グローバル・スタディーズ専攻の特徴は、英語による授業だけで卒業できることです。外国籍教員も大幅に増員し、従来の国際関係学専攻も含めて全体のレベルアップを図っていきます」と抱負が述べられました。さらに「学園ビジョンR2020」に掲げられている“Creating a Future Beyond Borders. 自分を超越る、未来をつくる”と

いう言葉を例に挙げ、「国境だけでなく、国籍、ジェンダーといった心理的なボーダーをも超えて、世界で活躍できる人になってほしい」と、学生へエールを送りました。

次いで、河村律子副学部長が、学部教育の現状について説明しました。「学生同士の違いを認め合いながら、良いコミュニティを作っているのが本学部のいいところ」と学部の雰囲気を紹介。一方で多くの活動に積極的に参加するが故に、興味を分散し、何を突き詰めていいのかわからな



くなる学生がいることも指摘されました。ご父母に対し「子どもに決定をゆだねつつ、得意なところはどこかを一緒に探してあげてほしい」と求めました。

桂良太郎学生主事からは、進路・就職状況について解説されました。「希望の進路を獲得するには、情報を有効活用することが重要です。学生にはぜひキャリアセンターに足を運んでほしい」と勧められました。卒業生が学生時代の思い出や就職について語った後は、会場を移してグループ別懇談会が催されました。

卒業生・学生の体験談



ネパールでの農村開発、
アメリカ留学で、見出した進路

国際関係学部2011年3月卒業
TOTO株式会社勤務

中村朱希さん

1回生の時、国際NGOを通じてネパールでの農村開発に参加。途上国の水・衛生分野への関心が深まりました。2回生の時にワシントン大学に留学。外から日本を眺めることで、日本のモノづくりのすばらしさを発見しました。就職活動を始めた当初は、選択肢を限定せず、外資系企業、国際機関など幅広い業界に目を向けていたものの、次第に「日本企業に勤め、ビジネスを通して途上国の発展を支援したい」という思いが固まって、現在の企業にたどり着きました。



大学生で得た語学力と
海外経験を銀行の仕事に生かす

国際関係学部2011年3月卒業
株式会社三井住友銀行勤務

和田修さん

学生生活では、多くの海外体験を通して外国と触れ、英語力を磨きました。ベトナムやメキシコにそれぞれ短期留学を経験した後、一度大学を休学。9か月間のアメリカ留学、3か月間のJETRO[※]でのインターシップを経て3回生で復学しました。それ以降は国際経済学ゼミに所属し、経済学について徹底的に勉強。語学力、海外経験、経済学の素養、そのすべてが就職活動で評価されたと感じています。今後は、海外展開を目指す銀行の仕事でそれらを生かすのが目標です。

※JETRO: 独立行政法人日本貿易振興機構



ありのままの自分を語ることが
内定につながった

国際関係学部4回生
全日本空輸株式会社内定

妹尾有里子さん

就職活動は、人それぞれ。形式に縛られず、自信を持って取り組むことが大切だと思います。エアライン業界を受験する際、エアラインスクールには通っていなかったため、多少の不安はありましたが、ありのままの自分を語ることで、内定を頂くことができました。進路を決めるにあたって役立ったのは、両親との何気ない会話です。どんな社会人になりたいかを考え、キャリアビジョンを明確にできました。一番身近な社会人として両親のサポートに感謝しています。



自分の経験から得た
価値観や成長が将来を切り開く

国際関係学部4回生
株式会社IHI内定

高橋佑介さん

就職活動を始めた当初、自分のしたい仕事を見つけられずに悩みました。そこで自分を見つめることからスタート。学生生活を振り返り、途上国へのボランティア活動に力を入れたことを思い起こしました。フィリピンの貧困層の子どもの教育支援を経験したことで、「途上国に貢献でき、人の健康や生活を支えられる企業」へと志望が絞られていきました。どんなにささやかな経験でもそこから得た価値観や成長は、自分だけの宝物です。そう思い、自信を持って就活に臨むことが重要だと思いました。

政策科学部

College of Policy Science

幅広い学びの知識やスキルを駆使し、
社会の問題に解決策を提言できる人間を育成

上子秋生学部長の挨拶でスタートした全体会では、まず藤井禎介学生主事が学生生活について報告し、今年は学生が大きな事件・事故に巻き込まれることなく、勉学に励んでいることを説明しました。学部教育については宮脇昇副学部長が、政策科学は『社会の医学』と言われるように、社会的な問題を認識して、その原因の所在を明らかにし(診断)、適切な解決策を提示する(処方・治療)学問であることを説明しました。2回生の『研究入門フォーラム』では、自分たちでテーマを設定して自主的に学び、政策実践力が身につくこと、国内外のフィールドワークに参加して、現場を調査研究することも学びの特徴です。現場での実践力を磨くために、『言語運用』『情報処理』『調査分析技法』といったスキルを養うことも重視していることが紹介されました。

進路・就職については、昨年の本学部の就職率が13学部の中でトップであった(94.3%)理由として、①現場に赴く中で、学生が自ずと社会問題に関心を持ち、『こういうことを勉強したい』『社会人になってもこの問題に取り組みたい』という強いマインドを抱く、②グループワークを多数経験することでコミュニケーション力やリーダーシップが自然と生まれ、ディベートやプレゼンテーションの訓練によって、論理的に人を説得する力が身につくことが挙げられました。最後に就職活動の支援として3・4回生のご父母に対して、子どもの相談に乗り、経済的・精神的にサポートすること、1・2回生のご父母に対して、将来のキャリアイメージを持たせるアドバイスをすることが依頼されました。

在校生の体験談が披露された後、回生別懇談会が行われました。



学生の体験談



正課とオリター活動で
社会や人との関わりを
学んだ

政策科学部3回生
埜瀬雄大さん

1回生時に「基礎演習」という少人数クラスがあったおかげで、下宿生の私も学部の学びや日常生活にすぐに溶け込むことができました。またこの授業のフィールドワーク・グループワーク・会議を通して、初めて社会との関わりを実感しました。2回生の「研究入門フォーラム」では韓国プロジェクトに所属。日韓の学生の互いの国に対するイメージを調査し、現地へも訪問しました。新入生を学習面で支援するオリター団に2年間所属し、団長を務めました。本学部のオリター活動は正課との関わりが強く、教員と相談して「基礎演習」の内容を考えたり、教壇に立って説明する機会も多く、大変勉強になりました。新入生に本学部で何を学ぶのかを伝え、グループワークを体験してもらう「フレッシュャーズ・ラーニング・キャンプ」の企画にも体力と時間を注いで取り組みました。現在は勝村ゼミで、平和という観点から地域共同体を見直すことを研究。今後はゼミと就職活動に専念したいと思います。



3回生からの行動力で
満足できる大学生活に

政策科学部4回生
キャノンシステムアンドサポート株式会社内定
足立環さん

「大学生活でやったことは、これだ」と言えるものがなく、危機感を抱いた3回生の時に、「ゼミ」「コーオプ演習(課題解決型長期インターンシップ)」「学部のOG・OBと在校生を交流させる活動」に注力することを決意。親を説得し、1年間一人暮らしをして挑んだ結果、自ら「がんばった」と誇れる、かけがえのない1年を送ることができました。しかし、就職活動では不合格の連続。ある時、採用担当の方に不合格の理由を尋ねると、「おっとりしたところが営業向きでない」との返答が。今まで営業志望だったので悩みました。キャリアオフィスに相談に乗ってもらいながら、方向転換。営業と技術職の間にある職種に魅力を感じ、就職を決めました。父母の皆さんにお願いしたいのは、金銭的な支援と、子どもの味方になることです。就職活動が長引くと、内定を得た友達とも関わりたくなくなることも。そんな時に親から「まだ活動しているのか」と思われるのは辛いものです。どうぞ、味方になって応援してあげてください。

文学部

College of Letters

8学域18専攻にカリキュラムを改編 キャリア教育と共に国際教育に注力する

全体会の冒頭、桂島宣弘学部長は、2012年度、文学部が大きな変革を遂げることを明らかにしました。「8学域18専攻にカリキュラムを改編します。1回生では高校からの接続教育とキャリア教育を強化し、専攻は2回生で選択する仕組みとします」と説明。同時に、全国の私立大学の中で唯一文部科学省の「キャンパスアジア拠点」に文学部が選ばれたことも報告されました。「中国や韓国の大学とも連携し、類を見ない国際大学としての学びを実現させます。アジアを舞台にした学びが加速することでしょう」と語られました。

続いて、高正龍副学部長が進路・就職について説明しました。今年3月に発生した東日本大震災の影響で、採用の長期化している現状を紹介。正課・課外の活動に一生懸命取り組むことが、結果的に就職につながるとした上で、「就職活動は

『団体戦』です。一人で抱え込まず、ご両親、友達、キャリアセンター、教員に相談してください」と説きました。

3名の学生による体験談の後、河角龍典准教授が「デジタル3次元地図で見る平安京のまちづくりと山並み」と題して、アカデミックミニ講義を行いました。平安時代の京都の景観をコンピュータで3次元映像に復元した「バーチャル京都」の映像を披露。「3次元化によって新しく見えてくるものがあります。例えば、街の中心にある大極殿から四方を眺めると、東西南北それぞれの方向に山の頂が一致することが判明。平安京が四方の山並みを意識して作られたという説を裏づける証となりました」と解説しました。また「こうした最新の情報技術を学ぶことも文学部のおもしろさです」と加えました。講義の後、専攻別懇談会が催されました。



学生の体験談



行動することで
人とのつながりができ
大学生生活が充実

文学部4回生
株式会社エヌ・ティ・ティ・
データ関西内定

南 健一さん

入学当初は、漠然と教員を目指して教職課程を取っていたものの、授業に出て、放課後アルバイトにいそむだけの学生生活でした。「このままでいいのか」と、真剣に考え始めたのは後期に入ってから。エクステンションセンターで講座を受け、ファイナンシャルプランナーの資格を取得。さらに先輩に誘われて、学生による新入生支援団体のオリター活動に加わったことで、学生生活が大きく変わりました。人とのつながりが増え、それに比例して大学生生活も充実していきました。忙しかったけれど、こうした活動が結果的に就職活動にも役立ちました。「自分で考え、行動する」ことが大切だと感じた4年間でした。



仲間に刺激され
英語漬けの学生生活を
がんばり抜いた

文学部4回生
株式会社日立トラベル
ビューロー内定

藪田 奈津美さん

「学際プログラム」を選択し、オーストラリアとドイツに短期留学、さらに留学生と交流する学術団体の活動と、英語を中心に送った大学生生活でした。授業では第一外国語としてドイツ語を選択し、3年間学習したことに加え、第二外国語や副専攻、またCLA※のTOEIC講座などを受講し、英語力を磨きました。副専攻の英語の講義はすべて英語で行われます。ついていだけで必死でしたが、学習意欲の高い仲間に刺激され、がんばり抜くことができました。5月に内定を得たものの、「本当にやりたい仕事に就きたい」と就職活動を継続。8月末に、憧れだった旅行会社から内定を得ることができました。

※CLA:立命館大学言語習得センター



学内外の活動を通して
「やればできる」
という自信を育んだ

文学部4回生
中学校社会科教諭
(兵庫県)内定

松村 慎哉さん

入学当初から、「主体性を持ってさまざまなことに挑戦しよう」と心に決めていました。1回生では、初めての一人暮らしを経験。2回生からは、オリター団の活動の他、心理学の学習にも力を入れました。一方で、教職課程の勉強もおろそかにしませんでした。3回生の後期、教員を志望する気持ちを再確認するため、小学校でのインターンシップに参加。加えて母校で部活動を指導するボランティアも始めました。そうした学外の取り組みを通して多くの人と関わったことで、「やればできる」という自信をつけることができました。教員採用試験の面接でも堂々と経験談を話せたことが、採用につながったと思います。

映像学部

College of Image Arts and Sciences

教員と学生が刺激し合う環境で クリエイティビティを生み出す「実践力」と「実戦力」を育成

大森康宏学部長の挨拶で全体会が始まりました。川村健一郎副学部長が、「本学部では『アート』『ビジネス』『テクノロジー』の切り口から映像を捉えて自分の適性を見出します。多様な実習や体験を通して、技術や知識を実社会で活用できる『実践力』と、自ら行動して新しいことに挑戦する『実戦力』を育成します」と、説明。カリキュラムについては、「目指す進路に応じて4つのフィールドに分かれて専門領域を系統的に学び、総合力を身につけます」と述べました。さらに、「教員と学生が相互に刺激し合う環境で、新しいものを生み出し、自らの可能性を磨き上げる」と学びの特徴を解説した後、活発な課外活動の取り組みについても紹介しました。

次に、中村彰憲進路就職委員が、震災の影響で採用活動が長期化する現在の就

職動向について述べ、「粘り強く複数の企業に挑戦する」「キャリアオフィスを積極的に活用する」「情報交換して団体戦で行う」ことを強調。また、現在3回生の就職動向については、「採用活動期間が短縮しているため、志望企業の採用動向を把握し、しっかり企業研究をすること」と語りました。さらに、希望する進路・就職を得るためには、正課・課外を通して学生生活を充実させることが重要と解説。本学部の実習や諸活動の機会を利用し、学生生活で何か打ち込めるものが見つけれられるようご父母のサポートも依頼しました。

バーチャルリアリティなどの分野で実践的な学習ができるラボや、映像編集やプログラミングに専念できる演習室など、最新の映像機器を完備した施設を見学した後、懇談会が実施されました。



学生の体験談



正課・課外共に 打ち込めるものを得た

映像学部4回生
株式会社進研アド内定
池山千咲さん

企業と一緒に企画・プロモーションを行う「プロデュース実習」や、ハリウッド最先端のCG制作現場を訪問する海外研修など、いろいろなことにチャレンジした学生生活でした。正課で最も力を入れたのはゼミ学習。プログラミングや新しい映像表現を学びました。先生との距離が近く、質問にも気軽に答えてもらえる環境なので、プログラミングが苦手な私でもがんばれます。また、課外活動では、映画制作とオリター活動に励みました。映画制作ではプロデューサーとして、集団で1つのものを作り上げるという貴重な経験を積みました。副団長を務めたオリター活動では、新入生の学習・生活面をサポートすることを通して、改めて映像学部の強みを実感することもできました。就職活動で自信を持って自分をアピールするためには、今までの自分の行動を振り返る作業が必要です。なぜ映像学部に入ったのか、なぜこの行動をしたのかと、親や友人の協力を得ながら何度も自問自答することで、自分の目指すものが見えてきました。



本質を熟考することで 進むべき道を切り拓く

映像学部4回生
株式会社博報堂プロダクツ内定
花田健太郎さん

1・2回生時は映像制作に没頭。2回生で日本芸術センター映像グランプリ脚本賞を受賞し、制作依頼が来るようになったものの、いつか自分の浮ついた状態に疑問を感じるようになりました。「自分が楽しいと思うことの本質」を考えるうち、自分を表現するより、思いを伝えたいという気持ちに到達。それからは「プロデュース実習」や「映画上映企画」に参加し、ビジネスゼミでマーケティングを学ぶなど、制作とビジネスの両方を勉強してきました。それができたのも、「専門的」で「実践的」でありながら、「幅広く」学べる体制が整っていたからだと思います。就職活動においても、自分がしたいことに照らし合わせながら業界・業種を深く研究し、「本質を考える」ことにこだわりました。就職活動は出会いです。志望企業への一方的な気持ちだけでは不十分。自分にも魅力がなければつながらは生まれません。志望企業の求めるものを考え、それに応じられる態勢を整えておくことが大切だと思いました。

経済学部

College of Economics

グローバルに活躍する人材、 地域経済の担い手となる人材を、幅広く社会に輩出

松原豊彦学部長の挨拶からスタートした全体会。経済学という学問が業種・職種にかかわらず社会人としての基盤となること、また文系学部の中でもトップクラスの就職決定率を誇り、卒業生が幅広い分野で活躍している現状を踏まえ、「地域の金融機関や地方公共団体で働く学生はかなりの数にのぼります。一方、本学部では近

年、国際化教育にも力を入れています。今後、グローバルな人材、地域経済のリーダーとなる人材を幅広く送り出したいと考えています」と述べられました。

続いて登壇した松本朗副学部長は、学生の多様なニーズに対応するカリキュラムを紹介。「少人数教育の充実を図りながら、海外留学に行ってもその後の科目履修に負



担がかからないような柔軟なカリキュラム体制を整えていきたい」と、そのビジョンを明らかにしました。

学生2名が学生生活と就職活動の状況を報告した後は、キャリアデザイン、就職活動に特化した懇談会を別々に実施。それぞれにおいて学生2名の体験談が披露され、活発な質疑応答が行われました。

学生の体験談



アイスホッケーと語学を両立できる留学を実現したい

経済学部2回生
加藤夏輝さん

学生生活の中心は、アイスホッケー部の活動です。スポーツを通して常に先を読み行動することの大切さを知り、今、それは社会でも求められるのだということを実感しています。観光事業に関するゼミでの学びや多くの出会いに刺激され、留学したいと考えるようにもなりました。今はまだ見えていない人生の目標、やりたい仕事を見つけるためにも、ぜひ実現させたいと思います。



学びや課外活動に精力的に取り組み夢の実現を目指す

経済学部3回生
手操梨々花さん

新入生を支援するオリター団の執行部を務めています。コミュニケーション能力が身についた他、マネジメントや組織運営の大切さを肌で感じることもできました。学びも充実していて、目下、経済学部ゼミナール大会での優勝を目指してゼミの仲間と共に研究を進めています。夢は、日本の将来の一翼を担える職に就くこと。実現のためにも、自ら行動し、大学生活をより充実させたいですね。



友人との出会いが、ビジョンを発見し形成する原動力に

経済学部2回生
名村陵兵さん

入学後、さまざまな夢を持つ友人との交流を通じて人間的に成長できました。またそうやって人と交流することにワクワクしている自分に気づいたことで、国内外を問わず多くの人と接する仕事に就きたいと考えようになりました。現在は商社に興味を持っています。理想と現実のギャップを少しずつ埋めていく作業こそがキャリアデザインだと思う。英語力とコミュニケーション能力の向上が、目下の目標です。



自分の感性に正直な行動が目標達成の近道

経済学部4回生
三菱自動車工業株式会社内定
田中有紀子さん

ボランティア活動で芽生えた「発展途上国の生活水準向上に貢献したい」という思いを叶えられる企業に絞って就職活動を展開。面接では、留学や国内外でのボランティアを通して培った環境への順応力、コミュニケーション能力をアピールしました。やりたいことは必ずやる。それを積み重ねることが、企業を選ぶ判断基準、自らの強みを増やすことにつながるのだと、実感しています。



自身を見つめ続け、成長を感じながら就職活動を展開

経済学部4回生
アメリカンファミリー生命保険会社内定
久富友里恵さん

地元で幅広い仕事をして人の役に立ちたいとの考えから、金融・生命保険業界、地域限定の総合職を中心に情報収集。面接では自分について聞かれることが多く、採用へのカギになると感じたので、自己分析には特に力を入れました。自分に合う会社を確かめるためにOB訪問も重視。先輩を含む多くの方々に会うたびに自分が成長していくのを実感でき、楽しみながら取り組むことができました。



自分に合う仕事と共に、人生の指標を見出す機会

経済学部4回生
株式会社三井住友銀行内定
生山真一郎さん

私の自信の源は、やりたいことを100ほど書き出し精力的に取り組んだ大学生活そのものです。「本音で話す」「真剣に遊ぶ」というモットーを掲げて行動したことが、自己分析やアピールに役立ちました。総合商社志望だった私が、あらゆる企業を見られる銀行の方が自分に合っていると気づいたのは、幅広い情報に触れるよう心がけていたからです。就職活動で人生の指標を見出すことができました。

経営学部

College of Business Administration

社会に出て個人の能力を問われた時、 大学時代に身につけた能力が生かされる

「立命館大学に経営学部が創設されたのは1962年。今年ちょうど50年目にあたります。また、マネジメントを発明あるいは発見したと言われるピーター・ドラッカーが生まれた日が、奇しくも本日11月19日。今日は、経営学部にとって記念すべき日です」という中西一正経営学部長の挨拶で、全体会が始まりました。

次に石崎祥之副学部長が、経営学部の目指す学生像を紹介。そこに近づくための一つとして、国際的なコミュニケーション能力の育成を挙げ、中でも英語と中国語の語学力の必要性を説きました。国際経営学科では、英語の成績に最低点を設定し、これをクリアしなければ卒業できないようにしていることも説明されました。「学生時代にやりたいことを思う存分やる

のも大切です。しかしそれだけに終始すると、後で苦労することになります。社会に出ると、個人の能力が厳しく問われる環境に置かれます。ついていくためには、大学でそれに対応できる能力を身につけておかなければなりません」と述べられました。

続いて、木下明浩副学部長が進路について言及。「日々の学習の蓄積の先に進路・就職はあります。まずは正課をきっちり学ぶことが第一。例えばゼミでは、課題を事前に読ませて感想文を書かせたり、必ず一回は発言させるといったタスクを与え、学生の能力向上をサポートしています」と説明されました。

次いで、鄭 雅英学生主事は、日々キャンパスで起こるさまざまなきごとについ



て軽快に語る一方、悩みを抱える学生にも対応していることを報告しました。和やかな雰囲気の中、学生2名による学生生活・就職体験談へ。

全体会の後は、学年別懇談会が実施されました。

学生の体験談



視野をぐっと広げて 幅広い希望職種で活動

経営学部4回生
大日本印刷株式会社内定
藤井那美さん

高校時代は、ユニクロの創始者・柳井正さんに憧れて、経営学部に入學し、アパレル業界に行きたいと思っていました。しかし就職活動では、「最初から一つの業界に絞るのはもったいない」と思い、視野を広げて他業種も考え、金融業界のインターンシップに参加したことで、「おもしろいことは一つじゃない。様々な企業を見て就職活動に挑もう」という気持ちが強まりました。実際にエントリーシートを提出したのは、多様な業界の50社。納得のいくまで就職活動をし、最終的には複数企業より内々定をいただきました。そして、「この人たちと働きたい」と思える企業に進路を決定しました。私の両親は、過剰に干渉せず、相談に乗って欲しい時だけ話を聞いてくれたこと、おいしいご飯を作って待っていてくれたことが何よりもありがたかったです。父母の方には、「どこの企業に就職したいのか」ではなく、「将来のビジョン」や「なにを成し遂げたいか」など、夢や目標を聞いていただければと思います。



苦戦するもエントリー数を見直し、夏採用で内定

経営学部4回生
株式会社東日本銀行内定
小杉隆紘さん

エントリーした企業数が少なかったことや、3月に起こった東日本大震災の影響もあって、私が初めて面接に臨んだのは5月の半ば。大変遅いスタートでしたが、自分のペースでやっていこうと決めていました。6月から始まった企業の夏採用に照準を合わせて活動しましたが、疲れもあってなかなか決まりませんでした。夏休みに入ってからエントリー数を増やし、9月に受け始めた企業から内定をいただくことができました。今振り返ると苦戦した原因は、最初に業種を絞りすぎたにも関わらず、業界研究を十分にできなかったこと。そのため、志望動機や自己PRに深みがなく、面接官の心に響かなかったのだらうと思います。情報収集の甘い私をサポートし、たくさんの情報を集めてくれたのは、心配性の両親。ありがたかったなと思っています。後輩の皆さんには、就職活動で忙しくなる前に、できるだけ単位を取っておくこともお勧めします。せっかく内定を得たのに卒業できないという学生もいるので要注意です。

理工学部

College of Science and Engineering

学生同士で学び合うシステムを積極的に導入 高度な専門性を養う大学院教育にも注力

この日は、学部長が公務で欠席のため、日下貴之副学部長が登壇。挨拶の弁の中で、理工学部が現在抱えている課題がいくつか挙げられました。「今の学生は、ゆとり教育や理数離れといった背景を抱える一方、就職活動では、新卒の学生への要求を高度化させている企業を相手にしなければなりません。また、学生間の学力格差も大きく、それを埋めることも重要です」。こうした課題解決のために行われている取り組みの一つとして、学生同士が学び合う「物理駆け込み寺」が紹介されました。

また、就職に関する話題では、「将来何がしたいのか」ではなく「何になれるのか」といった視点を持ちながら学ぶことの重要性が語られました。昨年の就職率を示すデータによると、就職活動初期に内定が決まった学部生は全体の3割弱であるのに対し、大学院生は約7割にのぼるとのこと。大学院教育を担当する深尾浩次副学部長は、とりわけ大手企業や中央省庁を志望する場合は「院卒の方が有利」とし、「これまで研究者への道と考えられてきた博士課程においても、昨今では産業界で活躍で



きるようなキャリアパスの構築に力が注がれています。2年、あるいは5年、さらに勉強を続けるメリットは十分にありま」と述べました。

続いて、4人の在学生在が学生生活や就職活動について体験談を発表。発表者によるパネルディスカッションも予定されていましたが、残念ながら終了時刻に。その後は、学科別懇談会が催されました。

学生の体験談



何事にも「一生懸命」 就職活動で成功をつかむ

理工学部4回生
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社内定
大塚康平さん

入学当初、決めていたのは「何をやるにも一生懸命」「授業はサボらない」の2つ。自治委員会の活動に打ち込んだ経験が、就職活動でも生きました。教員採用試験にも合格しましたが、「数学の知識と、人と話すのが得意な面を生かしたい」と考え、金融業界への就職を決断。親は「公務員の方が安定しているのでは」と助言してくれました。自分で悩み抜いた結果を、まず親に認めてもらいたくて説得しました。親御さんには「子どもが必死に伝えようとしていることを尊重していただくこと」をお願いしたいと思います。



就職に勝てる人間力を培った 充実した学生生活

理工学部4回生
株式会社LIXIL内定
森口友貴さん

授業に毎日出席し、専門の力と同時に人間力を高めることも心がけました。附属高から入学し驚いたのは、学生生活で附属の先輩が様々な分野で活躍している姿でした。自分も海外フィールドワークや、キャンパスの整備活動に参加。「大学院か就活か」で悩みましたが、「会社で学ぶ方が自分に合っている」と思い、就職を選択。技術職で内定を得ました。周りが大学院生ばかりの面接では、専門性のアピールに少し苦勞しました。内定を勝ち取れたのは、学生生活の経験をしっかりアピールし、人間力が認められたからだと思います。



母への感謝の気持ちが 4年間の原動力

理工学部4回生
株式会社ロックオン内定
足立愛樹さん

家計が苦しい中、母が勧めてくれた立命館大学に進学。成績上位3%の人が対象となる学費の半額免除の奨学金を受けながら、勉強、アルバイト、サークル活動に打ち込みました。3回生の頃から、営業職に興味を持ち始め、社員数約50人のベンチャー企業への就職を決意。大手企業に行かず、しかも営業畑という、工学系としては珍しい選択を、母は尊重してくれました。自分のなりたいイメージ像が明確になり、ワクワクしています。学生生活を支えてくれた母への感謝の気持ちに報いたくて、精一杯活動した4年間でした。



1年ごとの目標で 着実に進歩を遂げる

理工学研究科1回生
中上千聖さん

入学以来、毎年目標を立てています。1回生の時は課外活動で友人を作ること、2回生では、CADや知的財産に関する資格の勉強、3回生ではアプリケーション開発について勉強し、ビジネスプランコンテストに応募しました。私の案に興味を持ってくれた企業の方と話す機会も得ました。4回生では卒業研究に専念。専門知識が必要な分野への就職を希望し、大学院へ進学しました。今年の夏は、2週間のインターンシップを体験。さまざまな人の考えを知ることができました。後輩の皆さんにも、ぜひお勧めします。

情報理工学部

College of Information Science and Engineering

大学院の新設や新カリキュラムの導入など環境を充実させて「教育の質改善」を目指す

まず登壇した大久保英嗣学部長が、2012年に情報理工学研究科という新しい大学院が新設されると発表し、全体会がスタートしました。「情報系学部の中で、本学部は西日本最大規模。優秀な教員が揃い、高く評価されています。トップを走る大学として、より一層教育の質の向上に励みたいと思っています」と、述べました。とりわけ留学のメリットを強調。「留学から帰って来た学生は、勉学に対する意欲が全然違います。留学を通して自分を見つめ直すことで、就職活動にも柔軟に対応でき

ようになる。短期留学プログラムも用意しているので、ぜひ異文化に身を置く経験を積んでほしい」と語りました。

続いて亀井且有副学部長は、2020年から18歳人口が下がり始める問題に触れ、「立命館学園では、学園ビジョン『R2020』を掲げ、始動しています」と述べ、中でも、“教育の質改善”を重要視し、学生と教員の比率を見直し、学生数に対する教員数の割合を増やす計画であること、そして1回生の教育を今まで以上に充実させた新カリキュラムが動き出すことを説明し、



教育のさらなる充実を強調しました。

その後、仲田 晋副学部長が、学生生活について報告、続いて、小柳 滋就職委員長から進路就職についての現状が説明されました。

また学生生活や就職活動、大学院進学や大学院からの就職について学部生2名と大学院理工学研究科の学生2名が体験談を語り、その後は個別相談会が催されました。

学生の体験談



遊びと勉強を両立させて自立を目指す充実した日々

情報理工学部2回生
安達瀬菜さん

2回生になって専門の授業が増えたことで、レポートや課題の量も多くなりましたが、充実した日々を送っています。大学で友人と一緒に勉強する時は、セントラルアークへ、一人で集中したい時は図書館へ、またパソコンを使ってレポートを作成する場合はマルチメディアルームへと使い分けています。学生のニーズに合わせて施設が充実しているので、大学で勉強しやすいのがいいですね。将来はちゃんと自立できるよう、身の回りのことも含めてがんばっています。



研究に打ち込み人間的に成長金銭的な不安も解消できる

理工学研究科1回生
衣笠成輝さん

学部3回生の後期に、もっと自分のしたいことを明確にしたいと思い、大学院進学を決断しました。大学院では研究内容で奨学金が決定されます。大学院で自分のやりたい研究を続けても、金銭的な負担を軽減できると説得し、両親の許可を得ることができました。大学院では、学部生の授業に入って学習をサポートするティーチングアシスタントをしています。就職活動はこれからです。納得いくまで研究して人間的に成長できたから、満足のいく結果を出せるのではと思っています。



両親の影ながらのサポートが希望する企業への内定へ

情報理工学部4回生
楽天株式会社内定
高山怜也さん

私は春から楽天株式会社の開発職で、主にアプリケーション開発を行う予定です。3回生の10月から企業の説明会など就職イベントに参加し始め、2月はエントリーシートの提出に追われました。説明会は、大阪など地方でも催されますが、多くが東京で行われます。関西で予定が合わなければ東京にまで行く必要があったため、新幹線代の他、スーツ代、書籍代と出費が増えました。経済的にサポートしてくれたこと、困っている時にアドバイスをくれたことなど、両親が支えくれたことが就職につながったのだと感じています。



学会で養った理論性や研究内容が就職活動での強みに

理工学研究科2回生
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ内定
一柳有希さん

春から株式会社NTTデータに就職することが決まっています。就職活動をスタートさせたのは、12月。10月から説明会などは開催されていたものの、研究や学会に忙しく、なかなか参加できませんでした。最も忙しかったのは、説明会・面接・エントリーシートの作成が重なる2月でした。面接では、学会発表などで養った理論的に話す力や、学部時代より専門性を増した研究内容をアピールしました。就職活動中は、話を聞いてくれた先輩に支えられました。女性が働き続けるためには企業を選ぶ際に福利厚生が充実しているかを確認することも重要だと思いました。

生命科学部

College of Life Sciences

研究科開設により、実社会に通用する エキスパート養成に向けた段階的教育を強化

発足して4年目を迎えた生命科学部。2012年度には、新たに生命科学研究科が開設されます。冒頭で登壇した今中忠行学部長は、「研究開発職を志望する場合、大学院を修了するのがいまや主流となっています。研究科で一段高いレベルの教育を実践し、責任を持って対応したいと考えています」と、強い意気込みを語りました。

次いで森崎久雄副学部長から、学びについて解説されました。「大学では答えのない問題を探究します。その方法も自分で考える必要があります。そうした学びこそが、実社会で難問にチャレンジする力につながるのです」と強調。また高校までの学び、大学での学び、社会での実践の各段階を、茶道や武道の教えである「守・破・離」にたとえ、「指導者の教え

を守る『守』、教わったことを試す『破』、自らの境地に達する『離』。体得するのは大変で、まさに大学生活はマラソンです。コースの整備は教員の、そして給水は、ご両親の役目かもしれません」と述べました。

最後に学生3名が、体験談や英語によるプレゼンテーションを披露。その後は学科別に、就職関連の説明や施設・実験見学などが実施されました。生物工学科・生命情報学科合同で行われたキャンパスツアーでは、研究室、計算機実習室の他、最新の機器が並ぶ共同利用機器室も見学。充実の設備に、参加者から歓声があがる様子も見られました。また、実験に取り組む学生の姿も見ることができ、日々の研究活動を具体的にイメージできる意義深いひとときとなりました。



学生の体験談



今後を見据え、
基礎の徹底と
サークルを両立

生命科学部
1年生
土橋弘武さん

授業に加え、週2本ほどのレポート・課題をこなしながら、水泳サークルにも所属。入学前のイメージとは異なり、特に実験が始まった後期からは多忙な毎日を送っています。高校時代以上に予習・復習の重要性を実感していますが、そのための時間を確保するのも大変なほど。授業の空き時間に友人と一緒に勉強するなど、時間の使い方を工夫するようになりました。研究室配属に向けた情報収集では、先輩とのつながりが大きなプラスになるので、サークル活動も大切にしています。今の目標は、基礎知識の徹底。そのプロセスで、興味ある研究テーマや将来の夢を見つけたいと考えています。



英語教育や
実験を通じて
私自身が変化

生命科学部
3年生
細木ゆかりさん

生命科学部の特色の一つが、これまでとは全く違う学習スタイルの英語教育です。英語力に加え、スキルを磨く“Skill Workshops”では積極性を、学生自身がテーマを設定・発信する“Projects”ではプレゼンテーション能力や持続力を培うことができ、とても有意義でした。生物系の研究者になりたい一心で入学した私ですが、プログラム言語を用いた実験を通じて、時代や人々のニーズに応えるシステムを構築できる技術者を目指したいと考えようになりました。「どうすることが社会への貢献につながるか」に重点を置きつつ、就職するのか、大学院に進学するのかを判断したいと思っています。



大学院は
社会人としての
素養も培える場

理工学研究科2年生
テルモ株式会社内定
木下弘章さん

大学院に進学するきっかけとなったのは、4年生の時に参加した学会です。賞をいただき、私の実験は間違っていないという自信を得ることができました。大学院生のメリットの一つ挙げるとすれば、リーダーの立場を経験できることでしょうか。学部生がピアニストだとすれば、院生は作曲家であり指揮者。いかに研究室を最高の状態に持っていかを考へ指示する立場にあるので、コミュニケーション能力や信頼関係の構築力も含め、リーダーとしての資質を養えます。就職活動では、多くの情報から必要な情報を選択する力、筆記試験で求められる基礎力の大切さを実感しました。

薬学部

College of Pharmaceutical Sciences

融合型の研究ができる環境をさらに充実させて グローバルかつ柔軟な学生を育成

まず今村信孝薬学部長から、新施設が来秋完成することに加えて、1期生である4回生が、12月に迫った薬剤師の仮免許の試験に向けて最後の追い込みをかけているところだという報告があり、全体会が始まりました。

続いて、藤田典久副学部長から、各回生が学ぶ教科について説明されました。薬剤師の養成を目指す6年制で、低回生では基礎薬学や生物薬学などを学び、高回生では実践的な医療薬学を主眼に研究、実務実習を行っていくことが解説され、「融合型の研究を行えるところが、総合大学である立命館大学の一つのアドバンテージ」だと述べられました。また「6年間の勉強の中で、一番大事な時期は、1回生の前期です。入学した学部に興味を持てるかどうか、充実した大学生活を送る

分かれ目になります」として、1回生の前期に早期体験学習を実施していることや、自分で問題を提起し解決できる力を養うPBL学習を行っていること、英語教育に力を入れていることが報告されました。

薬学部は卒業単位数が他学部より多い上に、進級の条件となる単位数も各回生で決まっているなど、学生にとっては厳しい教学条件が設けられています。加えて薬剤師の仮免許試験も悔えることはできません。さらに薬学部の進路については、医薬分業が進む業界の就職状況が解説されました。

続いて、1回生、3回生の学生がそれぞれの学生生活について発表しました。その後は、学生生活体験ツアーが実施され、ご父母は実習室や研究室、模擬薬局、食堂などを見学。「予想以上に立派な設備」



と驚くご父母の姿も見られました。引き続き個別相談会が催されました。

学生の体験談



勉強に追われる日々の中、
課外活動にも参加し、
充実した日々

薬学部1回生
梅崎優志さん

1年間に取得できる単位数に上限がなく、必修科目が多いのが薬学部の特徴です。1科目につき得られる単位は1、2単位。しかも授業1コマ90分、さらに自宅で180分勉強しないと単位を取得できません。私の場合、一週間で58時間30分勉強しなければならない計算になります。加えて、授業では毎回課題やレポート作成の宿題が出されるので、勉強に追われる毎日を過ごしています。けれど勉強だけの学生生活は送りたくない。学生それぞれの個性を発揮できる課題活動にも参加し、充実した日々を送っています。さまざまな経験を積むことは、自己を作り上げる機会になるので、正課と共に必要な学びの両輪だといわれています。私は学生委員会に所属。大学に対する学生の要望をまとめ、学生を代表して大学に伝えるなど、学生を代表する活動を行っています。その他自主ゼミも所属し、比叡山に薬草を見に行ったり、岡山大学にある日本一の解析機器を見学したりと、学びに関連した活動にもいそしんでいます。



アトピー性皮膚炎の
理解を深め、英語力も
向上

薬学部3回生
鈴木優紀乃さん

私自身がアトピー性皮膚炎に悩まされてきたことから、アトピー体質を改善するにはどんな方法があるのか、また新しい薬を作ることはできないかと思い、薬学部に入學しました。授業は、例えば英語の場合「スキルワークショップ」と「プロジェクト」に分かれています。「スキルワークショップ」ではリーディングやライティングを学び、「プロジェクト」では自分の好きなテーマで調べて発表するというスタイルが取られます。私は、1回生の時には“天然”、“肌に優しい”とうたう化粧品が本当に肌に良いのかについて調査。2回生では手作り化粧品について、3回生ではグループで地球温暖化を研究し、後期ではいよいよアトピー性皮膚炎についても調べました。おもしろかったのは、それまで先端的な薬学とは遠いイメージだと思っていた漢方薬について学んだこと。就職先の幅も意外に広いと知り、ますます勉強意欲が高まってきました。

スポーツ健康科学部

College of Sport and Health Science

総合的な学び、実社会との連携、 最新設備でスポーツや健康の課題にアプローチ

2010年4月に開設されたスポーツ健康科学部。田畑 泉学部長からは「みんなで一緒に考えながら、この学部をつくっていききたい」と挨拶があり、学部が目指す人材育成に関する話題では、「グローバル」「リーダーシップ」「スポーツ健康科学」といったキーワードが出されました。

続いて、佐藤善治副学部長は、学生の進路について言及。「学部の名称からアスリートや保健体育教師をイメージされるかもしれませんが、進路はこれだけに限りません。スポーツビジネスやスポーツ健康サービスに注目が集まる中、健康について広く研究や教育を進めていける人材の輩出を目指しています」と語りました。

こうした人材育成のために、本学部が重視しているのが、総合的・学際的な学びです。自治体や民間の研究機関と連携した

り、プロスポーツ選手、スポーツメーカーや食品メーカーの企業人から学ぶ機会も豊富にあることが説明されました。

小沢道紀学生主事からは、学生生活の様子について写真を交えて紹介されました。草津市教育委員会と連携して行われた授業「サービスマーケティング」で学生が小学生を指導した事例や、東日本大震災の支援活動として学生が企画したおむすびの販売会など、多彩な取り組みが報告されました。

その後は、2名の学生が施設を案内。「栄養調理実習室」「スポーツパフォーマンス測定室」「スポーツ健康指導実験室」「低酸素実験室」など、数々の最新設備を備えた施設を見学した後は、教職員による個別相談の時間も設けられました。



学生の体験談



世間から注目されている 学部・研究科だと就職活動 を通して実感しました

スポーツ健康科学研究科2年生
関西テレビ放送株式会社内定

田中 潤さん

就職活動では、テレビ局や広告代理店を受けました。どの企業の方もスポーツ健康科学部・研究科で何を学んでいるかに興味を持ってくださり、注目されていると感じました。面接では、学部生の時にやっていたトライアスロンの話もしました。大学3年の時、世界学生選手権の直前に足を骨折。あきらめずにリハビリを続け、日本代表に選ばれたこと、その後もプロとして活動したことについて、その時にどんな努力をし、挫折を乗り越えたかを話しました。大学院では、コーチング論の科学的分析について研究しています。経済学部出身ですが、トライアスロン競技でケガをしたことをきっかけに、修士課程でコーチング論を学び始めました。あきらめずに最後までやり遂げた競技生活での経験は、大学院の研究で活かしています。一方、自分一人の力だけで何でも乗り越えられるわけではないことも実感しています。先生との距離の近さもこの学部・研究科の魅力。各先生方が親身になって支えてくれることに感謝しています。



教職員のサポートで 充実した学生生活です

スポーツ健康科学部2年生

下崎陽平さん

スポーツ健康科学部を選んで良かった点は、魅力的な教員陣です。研究内容も新しいことばかりで、興味深く学んでいます。それに、設備の充実度は関西一。こうした教育にふさわしい実績を残していきたいです。現在私は、学生委員会の会長を務めています。学会や学生委員会の活動を行うには、学部事務室の協力が欠かせません。私たちがどんな企画を持ち込んでも、決して頭から否定せず、「何とかしてやろう」という姿勢で考えてくださる職員の方々には、いつも感謝しています。この他、「立命館大学アスレティックメディスン」というトレーナーの育成団体にも所属し、日々学んでいます。「ケガで競技をあきらめる選手を減らすこと」が将来の目標。先日、ゼミの申し込みを終えました。将来の目標のためにはどのゼミに進むべきか、申し込み締め切りの1時間前まで悩んだ結果、スポーツ医学のゼミに決めました。大学院で研究することも視野に入れながら、がんばって学んでいくつもりです。

アカデミック京都ウォッチング

Academic Kyoto Watching

立命館大学の教員や、各分野の専門家の解説を聞きながら、ユニークなテーマで京都・滋賀をめぐるアカデミック京都ウォッチング。通常の名所観光では味わえない京都の新しい一面を発見できるとご好評をいただいています。2011年11月20日(日)、17のコースに分かれて朱雀・衣笠キャンパス・JR南草津駅を出発。秋晴れの下、参加された方々は色づき始めた古都と滋賀の散策を楽しみました。

各コースのご案内

京都歴史回廊協議会特選コース

漢字で巡る京都の名所～白川文字学・体験型漢字講座～
白川静記念東洋文字文化研究所による講座の後、白川文字学にゆかりのある場所を巡り、「漢字」をテーマに京都を再発見しました。

京都冥界紀行と大河ドラマ「平清盛」ゆかりの地
平安時代、現世と冥界を往来したと伝わる小野篁の活躍をたどりながら、冥界にまつわる場所を巡礼。平清盛ゆかりの地も訪ねました。

坂本龍馬の幕末京都を歩く
幕末維新ミュージアム・霊山歴史館から、寺田屋や大黒寺まで、坂本龍馬の足跡が色濃く残る場所を歩きながら、龍馬の真実の姿に迫りました。

本学教員と京の歴史・文化・街を訪ねるコース

理工学部山崎先生と歩く
～祇園新橋・産寧坂の町並み保存地区と高台寺～
京都らしい町家の風情が残る祇園新橋でお茶屋建築を見学した後、東山の町並み保存地区を散策。秀吉の妻ねねゆかりの高台寺も訪ねました。

文学部中西先生と訪ねる
～平安王朝の古寺と庭園～
仁和寺から東寺まで、源氏物語や徒然草にも描かれた古寺や庭園を巡りながら南下。千年の時空を超え、平安王朝の風を感じました。

文学部真下先生と歩く
～平安京の京都～
平安時代に祭祀が行われた船岡山を出発し、上賀茂神社をはじめ神秘的な言い伝えの残る場所を探索。紫式部ゆかりの盧山寺も訪ねました。

文学部山崎先生と訪ねる
京都の洋風建築～明治の息吹を感じて～
京都市街に今も残る、明治時代の美しい洋風建築を訪ねてきました。衰退した街の復興に懸けた人々の思いを感じました。

文学部佐古先生とめぐる
～京の公家文化～
平安時代に成立し、日本文化を支えた平安京の公家文化をたどるコース。「包丁式」を見学し、京都御所を訪ね、香道の作法も学びました。

文学部三枝先生とめぐる
武家の都・京都～寺社でたどる室町文化～
禅寺や茶道の興隆に寄与した室町時代の武家文化を追い、等持院、北野天満宮、八坂神社、建仁寺など名高い寺社をめぐりました。

文学部井上先生と歩く
～平安遷都ゆかりの地～
「平安遷都」という歴史的な事件をつまびらかにしながら、それを支持した勢力の痕跡や当時の様子を知ることができました。

文学部瀧本先生と散策する
～梶井基次郎「檸檬」の世界～
梶井基次郎の代表作「檸檬」の主人公「私」が追従する道程を追体験。果物屋で檸檬を買い、丸善に置いた主人公の心模様を追体験しました。

文学部桃崎先生と歩く 平清盛と六波羅、足利義政と東山
～京都の支配者はなぜ「京都」に住まない？～
足利義政の山荘だった銀閣寺や「五山の上」といわれた南禅寺、平清盛木像などを見学。中世を彩った支配者たちの世界観を探りました。

古都や近江の伝統・文化にふれあうコース

きぬかけの路と京町家探訪～和菓子作り体験～
京町家・富田屋で昔ながらの京都の生活やしきたりを学び、京都を代表する老舗、老松で和菓子作りに挑戦するなど、「京都」を体で体験しました。

世界遺産めぐりと宇治茶体験
東寺の五重塔、平等院の鳳凰堂や庭園など、世界遺産に登録されている京都の寺院をめぐった後、宇治茶の奥深い世界を体験しました。

京都文化にふれる～古都の名所を訪ねて～
世界文化遺産・金閣寺を皮切りに、南禅寺・水路閣などを見学した後、茶道資料館で一服。各時代に築かれた京都の文化に触れました。

「能」幽玄の世界へのいざない～能鑑賞～
「河村能舞台」にて河村純子氏の特別講座を受講。西本願寺では、唯一国宝に指定されている書院北の能舞台を含め、南北の能舞台を見学する機会を得ました。

江ゆかりの地と戦国近江
今回唯一の滋賀県をめぐるコースです。2011年のNHK大河ドラマに関連し、乱世を生き抜いた浅井三姉妹ゆかりの地を訪ねました。

文学部山崎先生と訪ねる 京都の洋風建築 —明治の息吹を感じて—

重要文化財に指定される建造物の15%を擁する京都。

明治以前の建物の多くが焼失し、それ以降は戦災に見舞われなかったことから、特に近代建築が豊富に残存します。

ミニ講義「京都の近代化と洋風建築」で語られた、明治の息吹を感じる洋風建築をめぐるコースをめぐりました。

course

龍谷大学本館 ▶ 柳原銀行資料館 ▶ 京都国立博物館 外観 ▶ 長楽館 (昼食・洋館見学) ▶ 祇園閣 ▶ 三条通り界隈 ▶ 京都ハリストス正教会 外観



文明開化を迎えた 人々の思いを 今に伝える擬洋風建築

最初の訪問地は、非公開の重要文化財・龍谷大学本館。完全なる和風木造建築ながら外観・内装の随所に西洋風のデザインが施された、日本を代表する擬洋風建築です。山崎有恒先生による丁寧な解説を聞きながら、文明開化の時代を生きた職人の心意気に思いを馳せました。

続いて、京都市登録有形文化財に指定されている柳原銀行へ。山崎先生は「建物の一面をカットすることで五角形に仕上げた擬洋風建築の特徴について説明したうえで、こういう建物こそ守り伝えていきたい」と語りました。その後、明治政府が宮廷建築家・片山東熊に依頼し完成させた京都国立博物館を訪れ、柳原

銀行とは対照的な壮麗な佇まいを目の当たりに。参加者の方々は先の解説を改めて思い起こし、深い感慨に浸りました。

明治期を彷彿させる バラエティ豊かな 西洋建築を堪能

午後はまず、煙草王と呼ばれた明治大正期の実業家・村井吉兵衛の別邸跡、長楽館に足を運びました。併設のイタリアンレストラン「CORAL」にてシェフ厳選の京野菜が絶妙のハーモニーを奏でるランチコースをいただいた後、宣教師として日本に渡ったアメリカ人建築家ガーディナーの傑作と称される本館へ。1階はロココ調、2階は中国風、3階は和風というユニークな洋風建築と共に、窓から一望できる東山の秋の景色を楽しみました。

次に、東山にそびえる祇園閣を拝観。富豪・大倉喜八郎の依頼を受け、洋館全盛の明治期に異端児と呼ばれた建築家・伊藤忠太が手掛けた摩訶不思議な楼閣です。独特のエキゾチックな空間や、「ここから見える京の街が一番美しい」とも言われる最上階からの眺めを満喫しました。

最後は西洋建築が建ち並ぶ三条界隈に移動し、みずほ銀行京都中央支店や中京郵便局、旧日本銀行京都支店である京都文化博物館別館、さらに少し足を伸ばして、日本に現存する最古級の本格的ロシアビザンチン建築、京都ハリストス正教会を見学。国宝級から素朴な建築物まで網羅した他にはないコースで西洋建築の歴史と面影をたどる、意義深い一日に幕を閉じました。

京都冥界紀行と 大河ドラマ『平清盛』ゆかりの地

このコースでは、平安時代に冥界と現世を往来したと伝わる

文人官僚・小野篁の足跡を追いながら、平安京の三大葬場を巡礼しました。

京都ジャーナリズム歴史文化研究所の丘 真奈美先生の解説で、今も京都の各地に残る冥界との接点を追いました。

また2012年のNHK大河ドラマの主人公平清盛にゆかりの場所も訪問。秋晴れの京都を満喫しました。

course

六道珍皇寺 ▶ 幽霊館本舗 ▶ 西福寺 ▶ 六波羅蜜寺・平家遺跡 ▶ 昼食 ▶ 清凉寺 ▶ 千本ゑんま堂・引接寺



六道珍皇寺から六波羅蜜寺へ 冥界の入り口に立つ

丘先生の解説によると、平安京には鳥辺野葬場(東)、化野葬場(西)、蓮台野葬場(北)という三大葬場があり、それぞれの地に小野篁の史跡が残されています。篁が冥界へ行った入口が、鳥辺野の六道珍皇寺の井戸だといいます。その出口は嵯峨野にあった福生寺の井戸で、廃寺となった後は遺構が清凉寺境内の嵯峨薬師寺に遷されました。蓮台野には、篁が閻魔大王の命で彫った巨大な閻魔大王像が安置されるお堂が建立されました。それが千本ゑんま堂引接寺です。このコースでは、平安京三大葬場を巡り、篁の史跡や平家遺構、有名寺院を拝観しました。

一行が最初に向かったのは、六道珍皇寺で

す。五条坂を上り、寺へと向かう一本道は、葬送行列の通り道。「死して冥界へ行く」ことから、当時、鳥辺野六道の辻は「死の六道」と呼ばれました。六道珍皇寺には等身大と伝わる小野篁の木像と共に、篁が毎晩閻魔へ行くために通ったとされる井戸があります。現在も毎年8月、お盆には先祖の精霊を迎える「六道まいり」が催されています。

ガイドの案内のもと、180cm以上という大きな体躯に凛々しい顔立ちの篁像や、ふだんは非公開の「冥土通いの井戸」を見て回りました。また地獄から天人へ至る六道が描かれた「熊野観心十界図」も見学。罪人が罰を受けるまがまがしい地獄絵図に見入りました。

続いて立ち寄ったのは、六道珍皇寺のほど近くの菓子店。母親の幽霊が子どものために飴を買いに来たという言い伝えのある「幽霊飴」

をお土産に購入しました。暖かな日差しが降り注ぐ中、一行は散策を楽しみながら、さらに西福寺、六波羅蜜寺へと足を伸ばしました。六波羅蜜寺は、2012年のNHK大河ドラマの主人公平清盛にもゆかりの深い寺です。宝物館では空也上人像や伝平清盛像を参詣しました。

昼食は、安政年間に創業した老舗「西陣魚新」で。秋の風情がふんだんに盛り込まれた「西陣弁当」を味わいながら、同じ大学生の子どもを持つ親同士、親交を深めました。

嵯峨野・清凉寺で 釈迦の生き写し像に見入る

おなががいっぱいになった後、篁が帰る出口があったと伝わる嵯峨野へ。清凉寺の境内にある嵯峨薬師寺の前には、「生き返って



〈ミニ講義〉

冥界と現世を行き来した 平安京の官僚・小野篁を追う

講師：丘 眞奈美 先生（京都ジャーナリズム歴史文化研究所）



「死んだらどこへ行くのか？」古来より人々は死後の世界への恐れと謎に対する答えを求めてきました。日本人の「死後の世界についての観念＝他界観」が形成された経緯は定かではありませんが、古代人が他界のイメージを描いたのが『古事記』『日本書紀』における「高天原（たかまがはら）」「黄泉（よもつ）国（くに）」「常世国」「根之（ねの）堅州（かたす）国（くに）」です。それは場所も様子も曖昧な表現でしかありませんでした。これを大別すると冥界が天にある「天上他界」、山の上もしくは山の中にある「山上（中）他界」、地下にある「地下他界」、海の果てにある「海上（中）他界」となります。

他界観が明確になるのは、仏教に習合された

道教の「十王思想」が伝わってからです。「十王」とは道教の教義にある地獄で亡者を裁く十人の神々です。その五番目の神が閻魔大王で、日本では地蔵菩薩と習合されています。『十王経』が伝来して日本的にアレンジされ、平安時代末から鎌倉時代初期頃に『地蔵菩薩発心因縁十王経』が成立します。それをベースに日本的な浄土の世界を描いたのが『往生要集』です。浄土信仰が隆盛していく中で比叡山横川恵心院源信が極楽往生に関する文章を集めた仏典で地獄と極楽について詳しく書かれています。「厭離穢土、欣求浄土」（穢れた現世を厭い、浄土を求める）を根本に、「六道」が説かれています。六道とは「地獄、畜生、餓鬼、修羅、人間、天人」という死後にそ

の人の罪業によって落ちていく六つの冥界です。

平安時代初期、死と隣り合わせの庶民に冥界観と地蔵信仰を広めたのが文人官僚・小野篁でした。「昼間は閻魔として朝廷に、夜は冥官として閻魔庁に出仕した」という「冥官伝説」があり、現世と冥界を往来できる神通力の持ち主だったと『今昔物語』をはじめとする古典に描かれています。実際の篁卿は、長年裁判官のような役職に就き、都の衛生・風俗を取り締まる役割を担いました。葬送の地に散乱した死体を見て、風葬から土葬へと衛生的な埋葬方法を進めたことから、平安京三大葬場に篁卿の史跡があるのです。

今日は小野篁卿の足跡を辿りながら、平安京の冥界観を感じてください。



冥界から帰る」ことから「生の六道」であったことを示す石碑が建てられています。清凉寺にはまた、釈迦が37歳の時の生き姿を彫った像を模刻したと伝わる「釈迦如来模刻像」が本尊として祀られています。インド、中国を経て日本に伝わったもので、「三国生来生身釈迦如来」とも呼ばれています。162cmの立像には、細部にわたって実物に近づける工夫が施されています。さらに驚くべきことに、木像内部には、数々の財宝や経典、そして絹などで作られた人間の臓器の模型が納められていたというのです。

最後に訪ねたのは、引接寺。平安時代、葬場だった寺の周辺にはおびただしい数の遺体が野ざらしにされていたといいます。おどろおどろしい逸話を交えた戸田妙昭住職の法話に

金森昭憲執事による説明を聞いた後、非公開の釈迦如来模刻像がご父母のために公開されました。また霊宝館では、釈迦如来模刻像内に納められていた臓器の模型や経典、さらに源氏物語の光源氏のモデルになったといわれる見目麗しい阿弥陀三尊坐像などを見学しました。本堂の奥、大放庭園では、見事に色づいた紅葉が陽の光に照らされ、鮮やかな朱色を放っていました。

引接寺、千本ゑんまを訪ね 閻魔大王と対面

最後に訪ねたのは、引接寺。平安時代、葬場だった寺の周辺にはおびただしい数の遺体が野ざらしにされていたといいます。おどろおどろしい逸話を交えた戸田妙昭住職の法話に

耳を傾けた後、身丈2.4mもある巨大な閻魔法王像が特別公開されました。口を大きく開き、金色の目をキラリと光らせた閻魔像が目の前に現れた時は、その迫力に、ご父母からは思わず驚きの声が漏れました。

夕刻迫る頃、冥界を巡る旅を終えた一行は、現世に戻ってきたような気持ちで帰路につきました。



Parents' Voices

秋のオープンカレッジに参加された
父母の皆さまにお伺いしました

徳永さんご夫妻
国際関係学部2回生

衣笠



小学生の時、英語教室に通いたいと言い出し、積極的に英語を学んできた息子。念願の国際関係学部に入學し、当初はやる気にあふれていたのに、2回生になって少し気持ちが緩んできたのでしょうか。アルバイトばかりして、今一つ勉強に身が入っていない様子です。今日お聞きした学生さんの体験談をぜひ息子にも聞かせたかった。国際関係学部の教学や留學制度の充実ぶりを知り、留學も勧めてみようかなと思いました。

鎌田さんご夫妻
映像学部2回生

衣笠



正課・課外を問わず積極的に活動する学生の話聞いて、わが子もできているのかなと少し心配になりました。関心は、やはり進路・就職について。映像は、社会でも重視される分野だと思いますが、映像学部の卒業生が社会でどのように活躍できるのかをもっと知りたいですね。一企業人としては、社会に通用する即戦力や人間力を大学で身につけることを望みますが、世界に負けないクリエイティビティも養ってほしいと願っています。

松田さんご夫妻
生命科学部3回生

BKC



生命情報学科に所属している息子は、なかなか大学のことを話してくれません。どのような環境で、どのように学んでいるのかを知りたいとの思いで参加しました。最も印象に残ったのはキャンパスツアーです。学生さんが実験に取り組む様子を見学したことで、ここで学ぶ息子の姿を具体的にイメージすることができ、親としては安心できました。親切に対応してくださる先生方のご指導、恵まれた環境を生かしてがんばってほしいと思います。

村田さんご夫妻
薬学部1回生

BKC



自分たちの目で息子が通っている大学の設備を見たいと思いつきました。薬学部学生生活体験ツアーでは、基本施設・サイエンスコアまで入ることができ、息子がどのように学んでいるか、うかがい知ることができました。思った以上に充実した設備、すぐにでも社会で働けそうな実践さながらの授業、先生方の前向きな姿勢を目の当たりにし、きっと息子にとって有意義な6年間になるだろうと安心しました。

委員懇談会

秋のオープンカレッジ開催同日の12時より、両キャンパスにおいて2011年度委員懇談会が開催され、全国から90名の父母委員と総長以下大学選出役員30名、オブザーバー2名が参加しました。

はじめに川口総長が大学代表として挨拶され、日頃の父母教育後援会活動と大学への支援について御礼を述べた後、東日本大震災で被災にあった学生に対する支援は継続的におこなっていくと説明されました。続いて、太田副会長が父母教育後援会代表として、全国から参加の父母委員に日頃の活動に対する感謝と、今後、より一層学生・大学のために父母教育後援会活動を推進していくと述べられました。最後に石井幹事長が会務報告をおこない、両キャンパスのテレビ会議は終了しました。

その後、衣笠キャンパスは馬場監事、びわこ・くさつキャンパスは太田副会長が司会を務め、各キャンパスで懇談をおこないました。秋のオープンカレッジの参加者全員に配布した冊子「親子で考えるキャリア講座」の内容や、JR南草津駅が新快速の停車駅になったこととともない10月から南草津-BKC間の直行バスが増便されるとともに、この直行バスの運賃が片道220円から170円になったことなどを、大学選出役員が説明しました。



〈委員懇談会次第〉

- (1) 大学代表挨拶：川口清史 総長（父母教育後援会名誉会長）
- (2) 父母教育後援会代表挨拶：太田勝之（父母教育後援会副会長）
- (3) 会務報告：石井秀則 教学部長（父母教育後援会幹事長）
- (4) 懇談

※(1)～(3)はテレビ会議で実施。(4)は各キャンパスに分かれて実施。



立命館大学父母教育後援会だより 2011年度夏号 読者アンケートについて

「立命館大学父母教育後援会だより」では、ご父母の皆様のご意見・ご要望を今後の誌面づくり、そして大学運営に反映していくため、「読者アンケート」を実施しています。「2011年度夏号」のアンケートの返送数は、計1,775通、回収率は5.5%でした(2011年12月末現在)。全国47都道府県すべての学部・回生のご父母から回答をいただき、全国型総合大学である本学の特徴、ご父母の皆様のリアルな声がよく表れた結果となりました。

(1) アンケート集計結果

1回生のご父母からの回答が最も多く、続いて2回生、3回生、4回生の順となりました。低回生のご父母からの回答が全体の70%を占め、その関心の高さが伺えます。また続柄の7割が母親、父親は3割でした。母親からの回答が圧倒的に多いものの、父親からの回答も増えており、大学教育に対する父親の関心も高まる傾向にあると考えられます。

参考1

父親	27.9%
母親	70.8%
その他	0.2%
無回答	1.1%
総計	100.0%

参考2 回答者の子供の回生

1回生	42.0%
2回生	25.6%
3回生	17.1%
4回生以上	8.6%
無回答	6.7%
総計	100.0%

(2) 興味を持てた記事について

上位1～4への回答が全体の70%におよび、いずれも高い評価をいただきました。とりわけ「2010-2011進路・就職状況」に対する回答は25%を超えており、進路・就職に対するご父母の関心の高さが伺えます。

参考3 関心が高かった記事(上位5)

1	2010-2011進路・就職状況	25.8%
2	データに見る学生実態	14.8%
3	学生・卒業生インタビュー	13.7%
4	親の心配・子どものホンネ	13.6%
5	春のオープンカレッジ開催報告	5.7%

(3) 興味を持てなかった記事について

「興味を持てなかった記事はない」という回答が圧倒的に多く、52%を超えました。「興味を持てなかった」と回答された記事は、いずれも8%台から1%台という低い水準で、目立って評価の低い記事はありませんでした。

参考4 関心が低かった記事(上位5)

1	興味を持てなかった記事はない	52.6%
2	総会・地域ブロック懇談会開催報告	8.3%
3	都道府県父母教育懇談会開催報告	6.9%
4	春のオープンカレッジ開催報告	4.0%
5	保健センター健康通信	3.9%

(4) 次号(2011年度冬号)の掲載記事について

次号で掲載してほしいテーマとして最も多かったのは、「進路・就職に関すること」でした。次いで「課外の学びに関すること」、「学生生活に関すること」、「教育・研究活動に関すること」と続き、この4つのテーマへの要望が、全体の90%を占めました。

参考5 次号に掲載して欲しい内容について

1	進路・就職に関すること	34.5%
2	課外の学びに関すること	19.8%
3	学生生活に関すること	19.2%
4	教育・研究活動に関すること	15.8%
5	本学教員や卒業生インタビュー	5.5%

(5) 立命館大学に関する質問について

全体の95.1%から立命館大学に入学して「満足している」とご回答いただきました(参考6・7)。一方「満足していない」という回答は3%でした。入学に満足していないと回答された49件のうち、その理由として多かったのは「第一志望ではなかった」ことで、それ以外には「学生生活に関すること」、「大学の規模に関すること」、「お金に関すること」が上位を占めました(参考8)。

参考6 立命館大学入学への満足度について

満足している	95.1%
満足していない	3.0%
無回答	1.9%
総計	100.0%

参考7 立命館大学に入学して満足している理由

1	子どもが充実した学生生活を送れているから	23.7%
2	教育環境が充実しているから	16.4%
3	多様な学び・教育を受けられるから	13.0%
4	進路・就職支援が充実しているから	12.0%
5	父母への情報提供が活発だから	9.3%

参考8 立命館大学に入学して満足していない理由(自由記述・一部抜粋)

- 他大学が第一志望だったため。
- 学費の問題で私大には進学して欲しくなかったから。
- 学費が高額で仕送りの負担もあるから。
- いまだに子どもが大学に馴染めていないから。
- 通学するには遠すぎた。自宅に近い大学だったら通学時間を有意義に使えたのではと思うから。
- 相談に乗ってくれる人が学生数に比べて少ないと思うから。
- 大学生生活は楽しそうだが、勉強は消極的。単位取得について悩んでいるので親としても気が重い。
- 一人暮らしでさびしそう。まだ友達もできず学生生活が充実してなさそうだから。

(6) その他、父母教育後援会に寄せられた意見(自由記述)

- 子どもからの情報がないと大学生活がまったく分からないという中、この冊子のおかげで大学のことがよく分かり、保護者の不安が軽減される。
- 毎号、遠方に住む親の視点に心を寄せた冊子作りで、大学の情報が満載されており楽しみにしている。
- 学生インタビューが多く興味を持って読みやすかった。父母インタビューで多くの父母が自分と同じ心配をしていることが分かり安心した。
- 興味を持てなかった記事はひとつもない。新入生の親として何も知らなかったのが勉強になったとともに立命館で学べる息子が幸せだと感じた。
- 都道府県父母教育懇談会は教職員の対応が親切で内容も充実しておりありがたい。
- 学生の様子や大学の方針を父母に対して積極的に示している点が良いと思う。
- 春のオープンカレッジに参加できなかったので詳しく報告してもらってありがたい。
- 会報や卓上カレンダーがとても役立ちありがたい。
- 立派な学生もいろいろ挫折を克服してがんばった事例も聞きたい。
- 保護者世代ではインターンシップになじみがなく意義や必要性がよく分からないので分かりやすく説明してもらいたい。
- 大学の情報が分かり安心する一方、重複している内容もあり無駄に感じる面もある。
- 興味深い記事ばかりだが文字が小さく量が多いため読むのにかなり疲れる。

2012年度からの新たな奨学金制度について

1. 本学独自の奨学金の概要について

本学が運用する独自奨学金は、経済的な理由により修学が困難な学生を支援することを目的とした「経済支援型奨学金(個人)」と学生の成長を支援する「育英奨学金(個人)・助成金(集団)」の2つを柱としています。これらの奨学金の予算は、総額約19億円にのぼり、国内の私立大学トップ水準の規模にあります。

特に経済支援型奨学金においては、経済状況の悪化を受けて、2009年度より予算を3.2億円から6.2億円へ緊急拡充し、支援の対象を広げました。さらに2011年度からは出願基準を緩和し、これまで出願資格がなかった学生のなかで、本人以外にも複数就学者がいるなどの理由で特段に支出の多い家庭の学生も採用されるようになりました。(資料1)

また本学は、学生の学びと成長には正課授業に加えてスポーツや

文化・芸術、ボランティア活動など、様々な自主的活動への参加が不可欠である、との考えに基づき、育英奨学金・助成金を運用しています。育英奨学金・助成金では、成績優秀者や留学などの正課での学びに加え、クラブ・サークルなど様々な課外自主活動を支援しています。

(資料1) 立命館大学修学奨励奨学金受給者推移(人)

年度	新入生	在校生	合計
2008	251	500	751
2009	296	500	796
2010	309	759	1,068
2011	500	924	1,424

2. 現行制度の見直しについて

本学では、現行の奨学金制度をさらに効果的なものとするため、経済状況の変化や各奨学金の効果検証を踏まえ、新たな奨学金制度について検討をおこないました。

2012年度からの新たな奨学金は、①正課授業・課外活動の枠を超えた総合的な支援の枠組みとする、②学生を「個人」と「集団」の2つの側面から支援できる制度とする、③学生の学びのコミュニティ形成を支援する、④経済支援型奨学金の比重を高める、ことを柱として制度設計をしています。

新たな奨学金制度の検討にあたっての主な視点

- (1) 経済状況の悪化による父母の学費への負担感の高まりに対応する。
- (2) 育英的支援について「結果」によるものとともに、「学びと成長のプロセス支援」の割合を高める。
- (3) 正課授業・課外活動を超えた自主的・集団的な学びを支援する。
- (4) 経済支援に対するニーズの増大を踏まえた入学時奨学金を設置する。

3. 2012年度からの新たな奨学金制度について

2012年度からの新たな奨学金制度では、「立命館大学修学奨励奨学金」の予算を拡充するとともに、「立命館大学入学試験受験前予約採用型奨学金」、「立命館大学海外留学プログラム経済支援奨学金(仮称)」を新設します。それにより、経済支援型奨学金と育英奨学金・助成金の比率を現行の3:7から2015年度までは5:5とします。また、経済支援型奨学金の緊急拡充措置(3億円)を2015

年度まで継続します。

育英奨学金においては、制度の組み換えによって、「+R個人奨励奨学金」をはじめとした「結果だけでなく、自ら定めた目標に向かって取り組みたい、挑戦したい学生を支援する奨学金」を新規に設定し、さらに「学生の学びのコミュニティ形成を支援する」助成金を設置します。(詳しくはP36-37の表をご覧ください。)



経済支援型奨学金受給者

修学奨励奨学金受給者

文学部3回生／女性

私は語学と教育について学んでおり、将来は教育の現場で活躍したいと考えています。なかでも語学運用能力を高めることは、学生生活の目標の一つであり、その一環として留学へ行くことを考えていました。しかし、アルバイトによる貯蓄と日本学生支援機構からの奨学金で学生生活を過ごしている私にとって留学費用は高額で、入学当初はなかなかその決断ができずにいました。そんな時、大学からのメールマガジンで修学奨励奨学金の存在を知った私は、慌てて奨学金への出願をしました。そして、採用の通知をいただくことができたのです。そのことを両親へ報告すると「留学頑張ってみたら？」と悩んでいた私の背中を押してくれました。これをきっかけに私は留学へ行くことを決心し、自身の決意が固まってからはそれまで以上に、意欲的に勉学へ取り組むことができました。留学という一つの目標に挑戦できたことは、将来の自分を見据えるうえで、とても大きな経験となりました。これも両親の支えと修学奨励奨学金があったからこそであり、本当に感謝をしています。残りの学生生活も感謝の気持ちを忘れず、邁進していきたいと思っています。

修学奨励奨学金受給者

薬学部4回生／男性

高校時代から薬学部への入学を希望していました。ただ、母子家庭でもあり、私立の大学は学費の面で進学は困難と考え、国公立大学を念頭においていました。そのような状況だったので、立命館大学へ進学することになったとき、母と家計状況について話し合ったことを憶えています。日本学生支援機構奨学金のみを受給するつもりになっていたところ、母が大学発行の奨学金冊子で修学奨励奨学金の存在を見つけ、学費負担が軽減されるのであればと思い、急いで出願しました。幸い採用となりましたが、もし、奨学金を受給していなければ、授業とアルバイトを中心とした学生生活となり、入学当初から続けているサークル活動も出来なくなっていたと思います。今の学生生活を継続するためにも出願を逃してはいけないと考えているので、友達と情報交換したり、学生オフィスの窓口掲示やホームページをマメにチェックしたりと情報収集しています。現在まで奨学金は毎年出願していますが、採用通知をいただく度、母には「頑張って勉強しなさい」と言われますし、大学からは「充実した学生生活を送るように」とエールをもらっている気がしますので、頑張ろうと気合いが入ります。

育英奨学金・助成金受給者・団体

西園寺育英奨学金受給者

産業社会学部2回生
西川聡史さん



私にとって西園寺育英奨学金制度は、充実した学生生活をおくるうえでの一つのツールとなっています。「チャンスをもにできるか否か、それが自分の努力次第なのであればチャレンジあるのみ」そんな思いで私は、正課の学びに打ち込んできました。

そのチャレンジが実り、自分が採用者となったことを知った時は大きな喜びと達成感を感じたことを覚えています。学費を負担している両親からは、ねぎらいと励ましの言葉をもらうことができ、それが今の学ぶ意欲に繋がっています。正課の学び以外にも課外活動やアルバイトもあり、すべてを両立していくことに辛さを感じることもありましたが、こうして振り返るととても充実した時間を過ごすことができていたと思います。

正課の学びに加えて、課外活動やアルバイトも妥協しない、これが私の原動力です。奨学金を目標とするのではなく、自身の取り組みの先に奨学金が結果としてついてくる、それが私の理想であり、目標とする学生生活です。

研修支援金受給団体

学生会登録団体
Windward



私たちの団体はボードセーリング(ウインドサーフィン)というスポーツをしており、普段は滋賀県の琵琶湖で活動しています。創立6年目のまだまだ若い団体ですが、他校の体育会系団体に混ざり大会に参加しています。私たちの今年の目標は、団体部門において2年連続全国大会準優勝という成績を残している同志社大学に勝つということでした。同志社大学は普段一緒に練習をしている仲間でありながら、私たちは彼らに一度も勝つことがなく、今年こそはなんとしても勝つため、練習量を増やす計画をたてていました。特に海の大会では普段練習している湖とは条件が大きく変わってしまうため、現地での合宿が重要になります。しかし、合宿には、自分たちの移動、宿泊費だけでなく、道具の運搬費や浜の使用料など何十万もの費用がかかります。体育会の部であれば遠征費などの援助もありますが、私たちはサークルであり、これらの費用は全て個人で負担していました。そんな私たちの状況を知った学生オフィスより、研修支援金に応募してみてもどうか、とお話をいただきました。私たちは、支援を受けるのにふさわしい、サークルがより成長できるように研修合宿を企画して出願した結果、いくつかの企画が採用され、昨年度より長く、多くの合宿を行うことができました。また、日本のオリンピック強化選手や国際レフェリーの資格を持った方たちと大会を通じて交流することができ、充実した練習を行う事が出来ました。そして私たちは、10月に行われた関西選手権第2戦において団体の部で初めて同志社に勝ち、3位での入賞を達成しました。また、11月に行われた全日本学生ボードセーリング選手権大会個人戦では、優勝者を出すことができました。研修支援金の秋募集でも2つの合宿が採用されたので、次は2月に行われるインカレ団体戦で優勝出来るよう練習に励んで行きたいと思っています。

2012年度 新たな本学独自の奨学金・助成金制度の概要 (大学院生を対象とした制度および留学生への経済支援制度を除く)

区分	名称	採用数	目的	支援の金額等
経済支援型奨学金	立命館大学入学試験受験前予約採用型奨学金	約400名	本学への入学を強く志望しているが、経済的理由により、修学が困難な全国の高校生・受験生を支援する。	受験前に奨学金内定。年間学費の1/2を支援(最短修業年限まで)
	立命館大学緊急入学時給付奨学金	約140名	入学前において家計支持者の失業等により、家計に急変が生じ、経済的に困難な状況となった者を支援する。	入学初年度の前期学費相当額(単年度) ※2回生以降の修学奨励奨学金への応募が可能
	学内推薦入学者奨学金			
	立命館大学修学奨励奨学金	新入生:400名 在校生:1,100名	経済的理由により、修学が困難な学生を支援する。	年間学費の1/4を支援。家計困窮度の高い上位1/4以内の者は年間学費の1/2を支援(単年度)※最短修業年限まで再出願可能
	立命館大学社会人学生修学奨励金	10名以内	経済的理由により、修学が困難な社会人学生を支援する。	20万円(単年度)
	立命館大学海外留学プログラム経済支援奨学金(仮称)	予算の範囲内で決定	経済的理由により、留学プログラムへの参加が困難な学生を支援する。	留学プログラム参加費用の一部を支援
	立命館大学大学院学内進学予約採用型奨学金	約80名	経済的な理由により、本学大学院(博士前期課程・修士課程・専門職学位課程・一貫制博士課程)への進学が困難な学生を支援する。	年間40万円を支援(標準修業年限まで) ※博士前期課程・修士課程・専門職学位課程(3年修了コースの場合3年)・一貫制博士課程(2回生まで)
	立命館大学父母教育後援会会員家計急変奨学金	約120名	父母教育後援会会員で学費負担者たる父母・保証人の死亡・病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学が困難となった学生を支援する。	年間学費の約1/2を給付(単年度)
育英奨学金	立命館大学西園寺育英奨学金	学部・学科・回生ごとに学則定員の2.0%	成績優秀者を奨励し、学部の掲げる「人材育成目的」にそった人材を育成する。	法学部・経済学部・経営学部・産業社会学部・国際関係学部・政策科学部・文学部・スポーツ健康科学部は40万円、映像学部・理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学部は70万円を分割し、前期と後期に分けて支給する。(単年度)
	立命館大学+R個人奨励奨学金	100名以内	正課授業・課外活動の枠を超えた学生の自主的・主体的な取り組みを支援する。	20万円(単年度)
	「立命館大学スポーツ能力に優れた者の特別選抜入学試験」特別奨学金	スポーツ:17名 文化・芸術:4名	特段に高いスポーツ、文化・芸術能力を持つ者を選抜し、競技力・活動の向上と学業の両立を促し、本学のスポーツ、文化・芸術活動の高度化・活性化を促進する。	年間学費の全額もしくは1/2を支援(最短修業年限まで)
	「立命館大学文化・芸術活動に優れた者の特別入学試験」特別奨学金			
	立命館大学アスリート・クリエイター育成奨学金	最大40名	スポーツ、文化・芸術および研究分野において世界・日本のトップを目指す学生を支援する。	申請内容により、100万円、50万円、20万円のいずれかを給付(原則として単年度)
	立命館大学資格・能力取得育英奨学金	資格・試験毎に設定	学生・院生の難関採用試験の合格および難関資格の取得を奨励する。	資格・試験毎に設定
	立命館大学海外留学プログラム参加奨励奨学金(仮称)	参加が決定した者全員	海外留学プログラムへの参加、修了を支援する。	プログラム毎に設定
	立命館大学APU交流学生プログラム奨学金	予算の範囲内で決定	立命館アジア太平洋大学(APU)との交流プログラムに参加した学生の学びと成長を支援する。	半年間の受給を認められた学生は14万円、1年間の受給を認められた学生は35万円(前期に14万円、後期に21万円)を支給する。(単年度)
助成金	立命館大学正課外活動活性化・高度化支援金	予算の範囲内で決定	課外自主活動における研修活動(指導者招聘、強化合宿等)もしくは大会出場、備品等の経費を支援する。	計画、対象費目・活動内容について審査を行い、支援の可否ならびに金額を判断する。
	立命館大学学びのコミュニティ形成支援金		①1回生の学習集団形成を目的としたピア・サポート活動を支援する。 ②学部を超えた多様な学びの集団活動を支援する。	
	立命館大学研究・ものづくり支援金		学部の正課授業の延長線上での集団による研究・ものづくり活動を育成・支援する。	
	立命館大学学生交流プログラム(正課プログラム)奨励金		学部の正課授業でのゼミやクラスが、立命館アジア太平洋大学を含む他の大学と学習交流する取り組みを奨励する。	
	立命館大学学園交流・国際交流支援金(課外)		クラブ・サークルを単位とした立命館アジア太平洋大学および国内外の大学との交流を支援する。	
表彰・顕彰	個人	10名以内	課外自主活動において、優れた活動実績をあげ、さらに高い目標を目指す学生個人を励ます。	50万円(単年度)
	団体・個人	団体:10団体 個人:20名 学生部長:100団体・個人	課外自主活動において、優れた活動実績をあげ、さらに高い目標を目指す学生団体・個人を励ます。	団体:30万円/個人:5万円/学生部長表彰:記念品

衣笠
キャンパス

星野ゼミ [国際関係学部]

📖 星野ゼミ [国際関係学部] 星野 郁教授

📖 ゼミテーマ：グローバル経済の現状と行方

2011年、特にニュースで話題となったヨーロッパの金融・経済危機。星野ゼミでは、現在はヨーロッパの金融・経済危機を主軸にタイムリーな経済の話題を取り上げて、世界の経済を多角的に分析しています。

ゼミ紹介

「世界を股にかける」目標を達成させ得るゼミ

私 達のゼミでは、欧州の金融経済危機をはじめとした世界経済の諸問題を扱っています。今年扱ったテキストは主に3冊。これらを元に、学生が中心となってグループプレゼンテーションやディスカッションを行ないます。さらに今年から、経済分野で興味のある時事問題についてディスカッションする「フリーディスカッション」というシステムを取り入れました。企画段階から学生が行なうこのシステムを通して「1から100まですべてを作ること」の難しさを学ぶことができました。

このゼミが重視するのはコミュニケーション。座学だけでなくアウトプットを重視し、「人間力」を養うのです。この環境を学生中心に作って

いることが最大の魅力です。同学年はもちろんのこと、先輩とのつながりも深く、社会人の先輩方との交流が多々あります。

このゼミに入って良かったと、心から思います。私の研究テーマ「世界の貿易」は、このゼミによって生まれました。いま、世界経済は転換期を迎えており、その中では常に貿易が重要となってくる。貿易を知るには、世界経済の現状を知る必要がある。その知識をこのゼミで得ることができました。「世界を股にかけて仕事をする」という私の目標を達成させるには申し分のないゼミです。星野ゼミ。ここでは、勉強、遊び、そして人として大事なコミュニケーション力や人間力を教えてくれるゼミなのです。



国際関係学部3回生
早川隆章さん



取材日当日は3名が発表



発表後は、星野教授がさらにわかりやすく解説



仲間の発表を聞きながら疑問点をメモ

Schedule

3・4回生

前期

- 春の勉強合宿 (3回生)
- グループ報告と討論
- タームレポート & 卒論テーマ決定と中間報告
- 夏季ゼミ旅行

後期

- 秋の勉強合宿
- オープンゼミナール大会参加とための準備
- グループ報告と討論
- タームレポート (3回生)、卒論 (4回生) 作成
- タームレポート & 卒論報告合宿
- 冬季スキー・ボード合宿



Interview

政治や社会、文化と不可分のヨーロッパ経済から世界経済を理解する

このゼミでは、2008年に起きた「リーマン・ショック」を発端としたグローバルな金融危機をふまえた世界経済の行方を研究しています。特に今年は、現在その動向を世界中が注視しているヨーロッパの金融・経済危機を中心に研究を進めています。

ヨーロッパは比較的狭い範囲に多数の国があり、国際関係や国際経済を知る上で非常に学びがいのある地域です。ヨーロッパは「福祉社会で、社会的格差の是正や貧困の救済などに力を入れてきた」と、どちらかと言えば理想的に描かれてきました。しかし、たしかに北欧は国際競争力も強くて福祉も充実していますが、南欧は今、大きくつまづき、改革を迫られています。ヨーロッパの中でも国や地域によって大きな違いがあり、ひとくくりにはできません。政治や社会、文化のあり方と不可分であるヨーロッパの経済は、多面的な視点からアプローチする必要があります。

ヨーロッパは現在、財政赤字と格闘していますが、政府の債務残高は日本の方がヨーロッパ各国のそれを上回っています。ヨーロッパの経済を知ること、ヨーロッパに劣らず深刻な問題に直面している今の日本の経済を認識するきっかけになり、世界の経済を理解する手がかりにもなるのです。

批判的思考で、生きた現実から問題点を捉えて

ゼミでは、その年に一番注目を浴びている経済のトピックを中心に、世界をカバーするようなテキストを使って輪読。同時に、経済の入門書を使って基礎力の向上も図っています。発表を担当するグループは、テキストの内容理解を発表するだけでなく、ディスカッションテーマを用意して、ゼミをリードします。学部内のゼミがそれぞれのテーマでプレゼンテーションをして競い合うオープンゼミナールにも毎年参加しています。侃侃諤諤とやっているのですが、それも貴重な学び合いの機会で、学生たちはそこでさらに友情を深めているようです。

ゼミ生には、現実の中から問題を捉えて自分なりに理解を深めるようにと指導しています。経済学は、元々は社会の現実を分析する学問として出てきたもので、生きた現実を学んで、社会に出た後具体的な課題に直面した時に、うまくこれに対応できるような力を養ってもらいたいと思っています。視角の多様性と批判的思考を持ち、「なぜそうなるのか」と常に問いかけることを忘れないでほしいですね。

ゼミは人間力を培う場

このゼミのモットーは「よく学び、よく遊び、よく飲む」です。ゼミは全人格的に付き合う場で、ゼミを通して、人との付き合い方や団結力を身につけてほしいと思っています。集団・組織の中でどのようにイニシアチブをとり、どんな役割を担うのか。ゼミを運営するにはそんなことも考えなければなりません。仲間と一緒に切磋琢磨して一つのことを創り上げることで、友情と人間力が培われていくのではないかと思います。常に前向きに自分を高め続けて。そしてやりたいことを見つけれたら、全力で取り組む。ゼミの活動に熱心に取り組んだ学生ほど、卒業時には、社会性やチームワークなど優れた人間力を身につけてくれています。

Profile

星野 郁 (ほしの・かおる)

国際関係学部教授

1981年金沢大学法文学部経済学科卒業。
1987年九州大学大学院経済学研究所博士課程単位取得満期退学。九州大学助手、國學院大学経済学部教授を経て、2005年より現職。
専門は、ヨーロッパ経済・金融統合を中心とする世界経済論および国際金融論。



Student's Voice

鍛えられるのは人間力

国際関係学部3回生 阿津坂祐貴 さん



今年は前期にリーマンショック、後期に欧州危機をみっちり勉強。よく「バランス型の☆(ほし)ゼミ」と言われることがあります。星野ゼミには、本当に個性あふれるメンバーが集まり、一人一人が互いに刺激を受け、影響を与え合うことができる環境があります。そんな縦と横のinteractive(インタラクティブ)なつながりが強い星野ゼミにおいては、「よく学び、よく遊び、よく飲む」がモットーとされ、日々、人間力の高め合いに力を入れています。

Student's Voice

人としての幅が広がる

国際関係学部3回生 城之内佑佳 さん



星野ゼミの魅力は、人としての幅を広げることが出来ること。基本的に学生の自主性を重んじており、ゼミの運営に関して言えば、イベント企画やML管理など、各々が役割を担っています。卒業論文に関しても自主性が重んじられ、様々な問題の中から各自が興味のある研究課題を見つけて取り組みます。私は東南アジアの開発経済をテーマに取り上げる予定で、現在はシンガポールの経済成長形態モデルの変遷を検証しています。今後は、ゼミで培った経験を最大限に活かして一人の人間として成長したいと思います。このゼミで、互いに協力し、切磋琢磨し合える仲間と出会えたことに心から感謝しています。

編集後記

海外留学にも非常に積極的で、毎年3、4人が留学。卒業生は金融関係や商社、メーカーなど幅広い分野で活躍している。年2回のゼミ合宿のほか、月に数度の飲み会が開かれるなど、勉強以外のイベントも豊富な星野ゼミ。そういったイベントも、学生が人間関係を作り、コミュニケーションを学ぶ場として欠かせないものになっている。フレンドリーな雰囲気の中にも、先輩と後輩、教授と学生の強いつながりを感じた。

- 📖 守ゼミ [経営学部] 守 政毅准教授
- 📖 ゼミテーマ: 中国をめぐる日中企業の経営戦略

現在最も勢いのある市場の一つである中国市場。守ゼミでは、現場の声を最大の題材にして、中国市場を舞台にした日中企業の発展の実態を経営戦略の視点から研究しています。

ゼミ紹介

学年、国籍を超えて強い問題意識持つ学生集まる

守ゼミでは、「中国をめぐる日中企業の経営戦略」をテーマに、基礎学習とグループ研究をしています。今年度は2、3回生の合同で、日本人学生に加えて、中国と韓国の留学生も参加しています。中国や北米をはじめとした海外の大学に長期留学するゼミ生も多く、学年や国籍を超えて、グローバルビジネスに強い問題意識を持つ学生が集まるのが特徴です。

21世紀に入って、中国は目覚ましい高度成長を果たし、いまや「世界の工場」や「世界の市場」となっています。名目GDPがついに日本を抜いて世界第2位の経済大国となったことで、日本企業の中国進出は増加。進出企業数は約2万社、在留日本人数は12万5000人。直接投資額は244

億ドルに上ります。とりわけ国際金融危機発生後、アメリカ市場の落ち込みが激しく、今後、日本企業はこれまで以上に中国など新興国市場へのシフトを進めるでしょう。

学内での学習だけでは得られない「現場の声」を大切に、守ゼミでは今夏、中国・上海市で日系企業3社を訪問して企業研究を実施。私が研究対象とした上海ヤクルト社でも、実際に工場の生産ラインを見学し、マーケティングと生産管理の責任者の方々にインタビューをさせていただきました。ヤクルト社は、中国の乳酸菌飲料市場で売上高シェアのトップを占める企業。新興国・中国市場に通用するその経営戦略にさらに研究を深めたいと考えています。



経営学部3回生
篠原 玲さん

Schedule

2・3回生

前期

中国ビジネスに関する基礎学習

文献学習と討論

夏季休暇中、中国・上海市でのゼミ現地調査旅行

後期

中国市場をめぐる日中企業7社の経営戦略に関するグループ研究

学内ゼミナール大会での研究発表



上海での企業見学の成果を発表



プレゼンに対して積極的にアドバイス



日中の学生から意見を聞いて話題を広げていく



Interview

新しい市場に生かされるアジア発の経営学を

「グローバル市場の縮図」と言われる中国。中国をめぐる議論では、その市場構造をうまく捉えながら、複眼的な視点で企業ビジネスを理解しなくてはなりません。このゼミでは、社会主義という体制の中で計画経済から市場経済へと移っていく転換を大きな流れとしながら、中国における日中企業の経営戦略を分析しています。

国際経営の分野では、アジアの新興国市場や企業の研究がまだまだ発展途上。中国などアジアの新興国市場に対する日本企業の国際経営戦略は多くの課題を抱えています。また、中国、韓国など新興企業の国際的な競争力が増す中で、新興国企業の経営も十分には解明されていません。アジアビジネスの現場観察を続けながら新しい「アジア発の国際経営」を理論構築し、その理論を再び現場にフィードバックさせることにアジアビジネス研究の意味があります。

現場を肌感覚で知る

前期では、中国のビジネスに関する基礎作り。中国の経済体制改革と産業発展に関する論文を使って中国経済について理解を深めたくて、在中国日系企業の事業事例を使った戦略分析を通じて、中国市場における企業戦略のあり方を考察しました。後期は、前期の学習内容を土台に、日中学生によるグループ研究。学生自身が研究対象の企業を選び、その企業が中国の産業構造、市場競争の中でどのようなビジネスを営んでいるのかを経営戦略の視点から分析します。今年度は日系、中国系企業7社を取り上げています。

夏休みには、ゼミ現地調査旅行として中国・上海市の日系企業3社へ企業訪問をしました。滞在中は、工場やオフィスの見学と、現場担当者へのインタビューを行ない、中国ビジネスの実際を理解すると同時に、中国ビジネスに携わる方々の経験談を伺うこともできました。日本と異なる中国ビジネスの現場で働く実務家の生の声から、国際的に活躍するための意識

を形成するのがねらいです。また、中国に滞在して、ビジネスだけに留まらない違和感や共感を肌感覚で知ることが国際ビジネスで活躍する上で大切です。日本人学生は高度成長を続ける中国ビジネスの躍動感から刺激を受け、中国人留学生は日本に暮らしていても分からない日本企業の戦略やマネジメントの独自性、中国ビジネスの実状を理解し、どちらにとっても非常に新鮮な体験だったようです。

国際経営の理論体系を理解するだけでなく、ビジネスの現場観察も交えながら、理論を用いて企業を戦略分析し議論をする中で、企業の競争力構築の特徴を見る目が養われていく。ロジカルに企業研究ができることは、国際ビジネスで進路を決める時にも役立つと思います。

海外も視野に入れて活躍の場を求めよう

活躍の場をアジアに広げるために、学生には中国留学を強く推奨しています。中国社会で長期間生活と学習をすることで、多様な文化的歴史的相違を理解し、高度な外国語運用能力と、国際ビジネスの理解力、創造力を身に付けることで、ビジネスを架橋できる大きな財産を持ち帰ることになるでしょう。海外留学にはさまざまな困難が付き物ですが、それを乗り越えて得られるものこそ、生涯自分を支える無形の財産になると信じています。

Profile

守 政毅 (もりまさき)

経営学部准教授

1999年九州大学経済学部卒業。2004年九州大学大学院経済学府産業・企業システム専攻単位取得中退、同年九州大学大学院経済学研究院学術特定研究員。2006年立命館大学経営学部助教授を経て現職。博士(経済学)。



Student's Voice

ゼミの学びを、何かを拓(ひら)くきっかけに

経営学部2回生 小橋智大 さん



私には、明確な夢や長期目標はありませんが、周囲が一目置く人物になりたいという漠然とした思いがあります。そのために面白い「自分史」を拓いている最中です。守ゼミでの学びもその一つで、何かを拓くきっかけを探しています。厳しいゼミですが、大学で学んだマーケティングや経営戦略の知識を実際の企業に落として考え、分析し、アウトプットできる場が守ゼミにはあります。研究や論文執筆の苦しみを乗り越えた後に生まれる仲間との一体感が魅力です。「中国」というひとくりにできない国家の人間や構造、文化などが好きだからこそ、このゼミでの学びを面白いと感じています。

Student's Voice

「社会人基礎力」磨かれたことを実感

経営学部2回生 丁 翔 さん



経営学を基礎から学びながら、ビジネスの知識と実践力を鍛えるのが守ゼミの特徴。日中ビジネスの最前線に携わる方を講師に招いて生の中国ビジネス事情を聞くなど「中国の今」を学ぶことができ、中国人である私にも大変勉強になっています。ゼミ旅行では上海で企業訪問調査を行ない、その成果をもとにゼミナール大会に参加しました。日本人学生と自由に討論を重ね、共同研究をすることは、留学生にとっては日本語での表現力、コミュニケーション力を向上させ、日中の異文化を発見する良い機会。ゼミを通じて、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力といった「社会人基礎力」が磨かれたと感じています。

編集
後記

ゼミ生の3分の1は中国人留学生。異なる文化やロジックを持った学生たちが、一つのテーマで共に学ぶのがこのゼミの特徴。同じ文献を読んでも日本人と中国人とはその解釈の方法も異なれば、研究作業の方法も異なる。しかし議論することによって、学生たちは試行錯誤しながら互いの考えをすり合わせ、理解し合っていく。日本にいながら異文化体験できる環境が、守ゼミの中にはある。

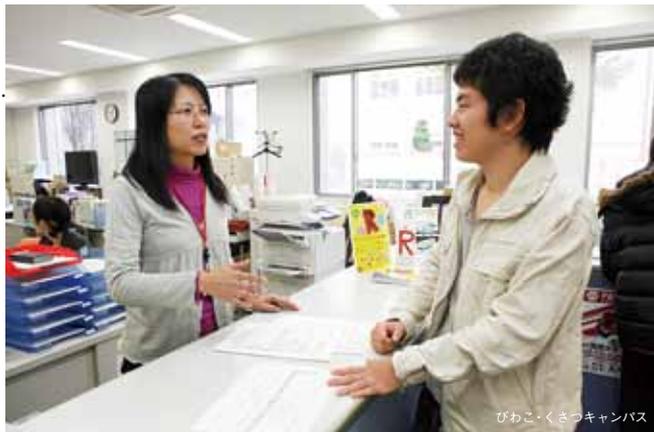
施設紹介

学生オフィス

- 衣笠キャンパス／研心館2階
- びわこ・くさつキャンパス／セントラルアーク1階

■窓口時間

月～金・祝日の授業日	10:00～17:00
------------	-------------



びわこ・くさつキャンパス



些細なこともでも、
窓口で相談すれば力になってくれる。
心強い存在です。

セミナーやイベントの
告知もあるから、
チェックしに訪ねてみよう！



学 生オフィスは、大学生活についてのさまざまな相談に乗ってくれるところ。「奨学金を申請したい」、「学費の納入が困難になった」、「授業や課外活動でケガをした」、「事故やトラブルに遭った」、「アルバイトをしたい」、「クラブ活動で学内の施設を使いたい」などなど、困ったことがあったり、学生生活での疑問があれば、まず学生オフィスに行ってみることをおすすめします。「どこで誰に相談したらいいかわからない」などという時も、ここへ。学外を含めて、適切な相談先を紹介してもらえます。またここでは、「学生サポートルーム」もあります。やる気が出ない、友達つきあいがうまくいかないなど、悩みがある時は相談に乗ってくれますし、カウンセラー

によるカウンセリングを受けることもできます。私は、「立命館大学飛行機研究会」というプロジェクト団体に所属し、毎年手作りの飛行機で「鳥人間コンテスト」に挑戦しています。活動する上では、学生オフィスにお世話になりっぱなしです。両翼を広げると30mにおよぶ機体を製作するのに必要なワークスペースを借りたり、支援金を申請する必要が出るたび、学生オフィスに相談しています。そのほか、地域のお祭りに研究会の紹介ブースを出すなど、学外の組織と関わる際、間に立って調整してくれるのも、学生オフィスです。窓口対応だけでなく、内容によっては相談スペースでじっくり腰を据えて話を聞いてくれます。学生の一番の味方になって、活動を支えてくれる。学生オフィスはそんな

心強い存在ですね。僕はもっぱら研究会のことばかりだけど、おもしろいプログラムやイベントがないか探しに行く友達も多いですよ。来年夏に開かれる鳥人間コンテストに向けて、飛行機の製作が本格化し始めました。速さを競う部門に出場するのが、今年の目標です。

学生生活の
相談ごと、
何でも聞きに
行こう！



衣笠キャンパスの教職員



びわこ・くさつキャンパスの教職員





エクステンションセンター

- 衣笠キャンパス／研心館1階
- びわこ・くさつキャンパス／プリズムハウス2階

■開館時間

月～金 9:30～17:00 (2012年4月～)

※昼休み 11:30～12:30

http://www.ritsumei.jp/extension/index_j.html



衣笠キャンパス



メンタル面も
しっかりサポートしてくれるので、
毎日のように通っていました。

資料がたくさんそろい、
自習室も快適です！
過去問題もたくさん利用しました。



卒業

業後の進路について考え始めたら、キャリアオフィスとともにぜひ活用してほしいのがココ。さまざまな資格や就職支援講座を受けられるだけでなく、実際に難関試験合格や資格取得された先輩方のお話を聞く機会から将来についての悩み相談まで、あらゆる面からサポートしてくれます。

私は2回生で「公務員入門講座」を受講しました。最初は「就活はまだ先のことなので、他愛もないことで相談に行くのは…」と躊躇していたのですが、先生や職員の方が真剣に聞いてくれるので、安心できました。低回生でも積極的に足を運ぶことをおすすめします。また、同じ進路を目指す者同士で集まる「自主ゼミ活動」では、公務員試験に合格された先輩に模擬

面接をしていただくために先輩方に連絡を取っていただいたり、自習室を用意して下さったりと、やりたいことをフォローしてくれます。先輩から直々に勉強方法を教えていただいたこと、仲間と一緒に高いモチベーションを持続できたことは、とても良かったですね。公務員に内定した先輩方の体験談が聞ける合格者セミナーも、ためになりました。

3回生では、本格的な対策のための「国家公務員Ⅱ種・地方上級コース」を受講して、最終的に名古屋高等裁判所の裁判所事務官として就職が決まりました。裁判所の筆記試験が終わってからは、面接シートに書き込んだことについて、質問しながら何度も添削してもらい、人物試験の助けにもなりました。毎日通ってしま

すが、いつもきめ細かく対応してもらい、感謝しています。

衣笠キャンパスでは1階に設置されている掲示板や、キャンパスウェブから届くメールをこまめにチェックして、エクステンションセンターをフルに活用してください。

希望する
進路を目指し、
さまざまな支援を
してくれます！



衣笠キャンパスの教職員



びわこ・くさつキャンパスの教職員





きょうのおひる

衣笠キャンパス [諒友館食堂]



衣笠キャンパス [諒友館食堂]



文学部2回生 江城里保さん

お手製弁当です。いつもは母がお弁当を作ってくれるんですが、仕事を持つ母が忙しい日は、自分で作っています。彩りには気を配っているんですが、どうでしょう？ 通学時間は、片道2時間半。私は教職課程を履修しているので、1限から夕方まで授業がぎっしり詰まっていて、帰宅が夜9時を回ってしまうこともあります。だからお弁当も夜のうちに準備しておいて、朝は詰めるだけ。友達もお弁当派が多いんです。いつも食堂でお弁当を広げ、大人数でワイワイ話しながら食べるのが楽しいですね。2回生になって、専門的な授業や少人数の授業が増え、気を抜けません。なるべく低回生のうちからしっかり単位を取っておこうとがんばっています。その上、週3日は塾の講師のアルバイトもしています。忙しいけれど、その分充実感はいっぱいです。息抜きは、友達と遊びに行くこと。洋服や雑貨を見て回るが一番のリフレッシュ法かな。



文学部1回生 中村佳正さん

コンビニでお弁当を買ったり、大学近くの定食屋で昼食をとることが多いんですけど、今日は久しぶりに学食に来ました。友達と二人、カレーうどんとカレーそばを選んだのには、理由があります。実は僕たち、「カレー部」なんです。カレー好きが高じて、半ば冗談で仲間を募ったところ、思いのほかたくさんの方が集まって。それじゃ、とサークルを立ち上げました。今ではメンバーも70人にのぼります。活動はもっぱら、みんなでカレーを作り、味わうこと。インドカレー、タイカレーなどありとあらゆるカレー作りに挑戦します。僕の得意はタイカレー。香辛料を工夫して、結構本格的なんですよ。食堂のカレーもおいしいですね。今は、平日は1限から夕方まで授業を受け、休日は地元でアルバイトをする毎日。せっかくの大学生活だから、やりたいことを思いっきりやりたい。まずはカレー部の活動をもっと盛り上げたいですね。

学生の数だけお昼ご飯も個性豊か。衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパスの両食堂を訪れ、お昼ご飯から、各々の学生のキャンパスライフを垣間見てみましょう。

衣笠キャンパス [諒友館食堂]



BKC [リンクカフェテリア]



文学部1年生 江角祐輔さん

天 気がいいので食堂を出て、中庭のテラス席で食べることにしました。体育会陸上部で短距離を走っている僕にとって、食事はトレーニングの一环です。ご飯や肉をガッツリという友達が多いけれど、僕はこの通り。ご飯は玄米、なるべく鶏肉や魚からタンパク質を摂るようにして、野菜も欠かしません。お茶は鉄分の吸収を阻害するらしいので、食事中は水を飲むようにしています。今は実家を離れ、大学に近い祖父母の家に居候中。「おばあちゃんのご飯」はヘルシーで、陸上選手にとっても理想的です。1限の授業に向けて起きる早朝、それに練習で疲れて帰ってきた夜、いつも用意してくれる食事には本当に感謝しています。おかげで体脂肪は、ずっと10%未満を保っています。練習は週4日。放課後、ここ衣笠キャンパスからBKCまで通っています。目下の目標は、リレーメンバーに選ばれること。今日も練習、がんばります！



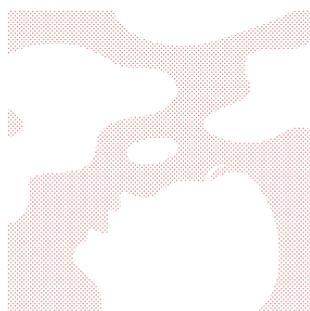
理工学部3年生 城戸鴻太さん

本 当はラーメンや脂っこいものも大好きだけれど、そればかりだと栄養が偏るかなと思って、なるべく野菜のお惣菜を追加するようにしています。昼食はだいたい500円以内に収まるように考えています。実家から通っていますが、授業やアルバイトで帰宅が遅くなるので、夜も外食することが多いです。正課では数理科学を学んでいます。3年生になって専門科目が増え、遅くまで大学にいる日が多くなってきました。そんな日は、夕食も学食ですませたり、帰りに定食屋に立ち寄ることもあります。今日授業が終わる予定は、夕方6時前。この分だとその前にお腹がすいてしまいそうです。放課後は、レンタルビデオショップでアルバイト。その他、音楽好きの友達とバンドを組み、毎週練習しています。イギリスのロックバンドの曲をコピーしたり、自分たちでオリジナル曲を作ったり。でも何より楽しいのは、ライブで演奏する瞬間ですね。

大学生のメンタルヘルスとその支援

はじめに

希望に満ちて入学してきた新入生も、大学生活の過程でさまざまな問題に遭遇します。保健センターやサポートルームには、多くの学生が大学やサークル、家庭での人間関係や生活上の困りごとについて相談に訪れます。特に最近では、昨今の社会情勢が学生の抱えるさまざまな困りごとに影響しているようです。10年程前までは新入生の新生活への戸惑いからくる相談内容が多かったのですが、ここ数年は上回生の就活や将来に関する不安を反映した相談が中心になってきている印象を受けます。しかしながら、相談内容の多くは深刻ではあっても、これとじっくりと向き合うこと自体は心理的にも社会的にも



もおとなとこどもの境界領域にある大学生として、いたって健全なことです。発達心理学で青年期・成人初期と呼ばれるこの時期は、自我同一性を獲得し、これに基づく親密な人間関係形成を課題とする重要な時期です。反面、不安やいらだち、そして孤立への恐れも強まる時期でもあります。むしろ、時間をかけるべき問題解決を焦ったり、逆に問題など無いかの様にふるまうことが、メンタルヘルス不全の遠因となっている事例が散見されます。

一方で精神医学的に見れば、この時期は一部の精神疾患の好発年齢でもあります。例えば、統合失調症は20歳台前後に発病することが知られています。さらに、これまでは中・壮年期の疾患と考えられていたうつ病も、近年では若年化傾向が指摘されています。これには異論もありますが、若年者の情緒的な不安定さが問題となっている状況には変わりありません。他にもパニック発作などの不安障害もこの時期にしばしば認められる疾患です。しかしながら、今日の医学の進歩により、これらの

疾患のいずれも適切な治療を受ければ、概ね治癒可能になりつつあります。いまや、必要以上にこれら精神疾患を恐れる時代ではなくなってきました。

むしろ現代では、これまでは病気と考えられなかったメンタルヘルス不全に関連した諸問題、すなわち虐待やいじめ、ハラスメント、薬物やギャンブルへの依存などが、わたしたちの社会の取り組むべき課題として浮上してきました。青年期に限っても、社会的ひきこもり、さまざまな逸脱行動、自他に向けられた衝動性の制御の脆さ、さらに近年着実に若年層に浸透しつつある薬物乱用などがあります。

メンタルヘルスとは

メンタルヘルス(精神保健、本によっては精神保健福祉とも意識されます。)とは、WHOの定義などを要約すると「生物学的(biological)、医学的(medical)、教育的(educational)および社会的(social)側面から精神健康を促進して、よりよい人間のあり方・関係性(well-being)を作ること」という事ができます。つまり精神疾患の治療・再発防止が狭義のメンタルヘルスとするなら、精神的な不健康状態を正しく認識し、これを改善してゆくのが広義のメンタルヘルスとも言えるでしょう。そしてこの意味でのメンタルヘルス向上のための重要な要因のひとつとなるのがストレスへの対応になります。

メンタルヘルスとは

ストレスに対応する力とメンタルヘルス

ストレスという言葉は、カナダの生理学者セリエが提唱して以来、日常用語としても普通に使われるようになりました。現代では身体・物理的なものよりも習慣的に心理・社会的な内容を示すことの方が多くなっているようです。この心理・社会的なストレスにもさまざまな種類があり、例えば満員電車での長時間通勤のような日常生活のささいな不愉快の積み重ねもストレスといえます。

ストレスに対応する力とメンタルヘルス

ストレスという言葉は、カナダの生理学者セリエが提唱して以来、日常用語としても普通に使われるようになりました。現代では身体・物理的なものよりも習慣的に心理・社会的な内容を示すことの方が多くなっているようです。この心理・社会的なストレスにもさまざまな種類があり、例えば満員電車での長時間通勤のような日常生活のささいな不愉快の積み重ねもストレスといえます。

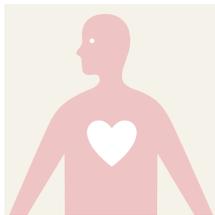
しかし、ストレスで最大のものは、人生の節目におこる大きな出来事(ライフイベント)でしょう。これには家族や伴侶、親友との別離などの喪失体験はもちろん、進学や就職、結婚、転居など生活基盤の大きな変化も含まれます。新しい環境に適応するためには強い心のエネルギーを必要とし、それ自体ストレスとなることもあるのです。一方で、人にはストレスに対応する力が、大なり小なり元来備わっているものです。だからこそ、多くの人は日常のさまざまなストレスに対して、何とかやり過ごしたり、時には人生の糧として未来に活かしてゆくことができるのです。

しかしながら、個人のストレスに対応する力には必ずと限界があります。たとえばPTSD(心的外傷後ストレス障害)のような、生死にかかわるような極度のストレスに曝された場合、人はそのストレスを克服しようと却って心のエネルギーを消耗してしまいます。また、これ程でなくとも慢性的なストレス持続状況にあるとき、これに対して過剰に適応して身体に無理がきたり、アルコールの乱用のように誤った対応を続けた結果、その対応自体が、メンタルヘルス不全の原因になる事もあります。

一人ひとりのストレス対応と 周囲のエンパワーメント

では、日々増大するストレスに対してどのように対応するのが正しいのでしょうか？ 最近の学説では、「まず、ストレスの状態に気づき、ストレスと上手に付き合うこと」が心身の健康維持のポイントであるといえます。自力でのストレス対策として、一人ひとりの「ストレス耐性」の強化が必要だということです。しかし、前述したとおりストレスがあまりに大きく一人では対処しきれなかったり、何らかの障害のためにストレス耐性が十分に成熟していない場合は、どうしたらよいのでしょうか？

ここで個人のストレス対応の成否の鍵をにぎっているのが、周囲の支援によるエンパワーメントです。先ほどのPTSDのよ



うな例においても、周囲の人々の心理・社会的な支えの有無が治療予後を大きく変えます。

エンパワーメントとは、悩む人のストレスを除去したり、本人のかわりに背負うのではなく、その人が自身の置かれたストレス状況に気づき、問題を自覚し自助努力してゆく過程を支援する事です。ここにメンタルヘルスの向上が単に医療的配慮にとどまらず、その人の全人的な人間的理解にもとづく支援(対人援助、すなわち福祉の領域でもあります。)も含んだ概念であることがわかります。

親として、おとなとして 周囲が出来る事

青年期においては知識のうえでは充分わかっている、問題解決のため幅広い視野や心理的余裕をもつこと、いいかえれば大局観をもつことが、おとなより困難な傾向にあります。おとなの見識や経験が本人のストレス対応に有用であるのはもちろんの事、周囲の心理的支援が、それにも増して本人の内在するストレス耐性を高めてゆきます。支援とは、こまごまと助言したり、ましてや管理することではありません。時には関心をもった見守りだけで十分な場合もあります。支援は支援者の安心のためではなく、本人の自立のためにあります。そしてこの支援により高められたストレス耐性がさまざまなメンタルヘルス不全への免疫や治癒への力となるのです。付け加えるなら、発達心理学におけるわれわれ成・壮年期のメンタルヘルス実現のための達成課題は「未来の世代への関心」にあるのですから。

下記の保健センターのホームページもご覧ください。

〈立命館保健センター〉

<http://www.ritsumeji.ac.jp/mng/gl/hoken/>

立命館大学ホームページ ▶ 各センター等 ▶ 保健センター





SPORTS

スポーツ

【問い合わせ先】スポーツ強化センター：075-465-7863

スポーツ関連団体の主な成績 (2011年8月～12月)

団体名	開催日	成績
男子陸上競技部	8月12日～23日	第26回ユニバーシアード競技大会 小谷優介さん(経済4)が男子100m準決勝進出、 男子4×400mリレーで日本チーム(堀江新太郎さん(経済3)が第2走者)が準優勝
	9月9日～11日	天皇賜盃第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 小谷優介さん(経済4)が100mで優勝、堀江新太郎さん(経済3)が200mで3位、 小西勇太さん(経済3)が400mHで4位
	10月15日	秩父宮賜杯第51回実業団・学生対抗陸上競技大会 小谷優介さん(経済4)が男子100mで優勝、小西勇太さん(経済3)が男子400mHで優勝
女子陸上競技部	8月12日～23日	第26回ユニバーシアード競技大会 田中華絵さん(経済4)が女子10,000mで準優勝、岩川真知子さん(経営4)が女子ハーフマラソン(個人)で4位、 女子ハーフマラソン(団体)優勝 日本チーム 3時間50分43秒(上位3名合計タイム)
	9月9日～11日	天皇賜盃第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 籾下明音さん(経営2)が1500mで優勝、竹中理紗さん(経営4)が5000mで準優勝、 前田浩唯さん(経済2)が10000mWで準優勝
	10月23日	第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 2時間6分29秒のタイムで、3年ぶり6度目の優勝
弓道部	8月9日～11日	第59回全日本学生弓道選手権大会女子団体が優勝
水泳部	8月13日	〈シンクロ〉ジャパンマーメイドカップで上南侑生さん(経済4)がソロテクニカルルーティンで優勝
	9月9日	〈飛び込み〉2011山口国民体育大会で浅田梨紗さん(文2)が成年女子高飛び込みで優勝
男子ソフトボール部	8月27日～29日	第46回全日本大学男子ソフトボール選手権大会で準優勝
ボート部	9月15日～18日	第89回全日本ボート選手権大会で松田達也さん(経済4)と奥村武さん(経済5)が男子ダブルスカルで優勝
カヌー部	8月26日～31日	第47回全日本学生カヌースプリント選手権大会 総合、カヤック部門、カナディアン部門で準優勝
	9月8日～12日	平成23年度日本カヌースプリント選手権大会 松崎陽祐さん(経営4)、佐藤賢太さん(経営3)、小又千春さん(経済3)、 松尾圭悟さん(経営2)が1000m K-4 決勝で準優勝、矢野純基さん(政策4)が200m C-1A決勝で準優勝、 水越純介さん(経済4)、矢野純基さん(政策4)が200m C-2決勝で優勝
バドミントン部	10月15日～20日	2011年度全日本学生バドミントン選手権大会女子団体が3位
柔道部	10月8日～9日	平成23年度 第27回全日本学生柔道体重別選手権大会 只野真梨枝さん(産社4)が女子78kg級で優勝、大野陽子さん(産社4)が女子70kg級で3位
	10月29日～30日	第3回全日本女子学生柔道体重別団体優勝大会で準優勝
	11月19日～20日	グランプリ アムステルダム(オランダ)で大野陽子さん(産社4)が女子70kg級で3位
日本拳法部	10月30日	第27回全日本学生拳法個人選手権大会で辻竜汰さん(政策3)が男子個人戦 優勝
ホッケー部(男子)	5月4日～10月23日	高円宮杯 2011 男子ホッケー日本リーグ優勝
	12月8日～11日・18日	第85回 全日本男子ホッケー選手権大会優勝



CULTURE / ART 文化・芸術

【問い合わせ先】学生オフィス：075-465-8167

ダブルダッチの世界大会 第20回ダブルダッチ・ホリデークラシックで準優勝、3位を獲得!

【12月4日 ニューヨークアポロシアター】

ニューヨークアポロシアターにて開催された「第20回ダブルダッチ・ホリデークラシック」において、立命館大学のダブルダッチサークル「Fusion of Gambit」のチーム「Ballon D'or」が準優勝、「dig up treasure」のチーム「Eo-CENCe」が3位を獲得した。両チームは、10月16日（日）に開催された、全国大会「Double Dutch Delight Japan 2011」において、優勝、準優勝を果たし、世界大会への出場権を獲得していた。



「Ballon D'or」のみなさん



「Eo-CENCe」のみなさん

第42回全日本学生将棋団体対抗戦（学生王座戦）で優勝

【12月27日 三重北勢地域地場産業振興センター】

「第42回全日本学生将棋団体対抗戦（学生王座戦）」において、立命館大学将棋研究会が2年連続7回目の優勝を果たした。東京大学と8勝1敗で並ぶ厳しい戦いとなったが、勝数で上回り優勝を勝ち取った。なお、荒井祥太さん（生命4）と中川慧梧さん（産社1）は、2011年度学生王将戦に出場。中川さんが優勝、荒井さんが3位に入る好成績を残した。



楠木早紀さんが、かるた第56期クイーン位決定戦8連覇を達成!

【1月7日 滋賀県大津市 近江神宮 近江勸学館】

滋賀県大津市・近江神宮勸学館にて第56期クイーン位決定戦が行われ、楠木早紀さん（産社4）が、本多恭子さん（立命館大学かるた会、スポーツ2）との同校対決を制し、8連覇を果たした。

クイーン戦は3回戦までおこない、先に2勝した方の勝利となる。今回の決定戦では、楠木さんが2連勝。先輩の貫禄を見せ、クイーン位を防衛。楠木さんは、今回の勝利で、自身の持つクイーン位決定戦の連勝記録を16に伸ばした。



CAMPUS ACTIVITIES 学生の活動

【問い合わせ先】学生オフィス：075-465-8167

2011年学園祭を開催! 今年のテーマは、「+one（プラスワン）」

【11月5日・6日 びわこ・くさつキャンパス、11月12日・13日 衣笠キャンパス】

今回の学園祭のテーマは「+one（プラスワン）」。学園祭というひとつの運動の中への巻き込み、統一感のあるつながり、+（プラス）によって一段高いレベルにしていけるように、という願いが込められている。当日は、模擬店・フリーマーケット、屋外企画などに学内外を問わず大勢の人が訪れ、盛り上がりを見せた。今年は、鉄道研究会が実施した東日本大震災で被災した三陸鉄道の写真パネル展や、311+Rnetの学生による東北物産の販売、民科経済研究会による原発問題を考えるシンポジウムなど、震災復興関連の企画も多数開催した。



携帯GPSゲーム「うじゅのばわ〜すぽっとめぐり!」 古都のほっこり嵐電つあ〜を産学連携で開発

【11月26日・27日 東映太秦映画村】

映像学部を中心とする学生8名と株式会社supernovaはGPS（全地球測位システム）機能を活用した、携帯端末型のゲーム「うじゅのばわ〜すぽっとめぐり!」古都のほっこり嵐電つあ〜を開発した。これはご当地キャラクターとGPSゲームをコラボレーションさせた、新たな観光スタイルを提案する実験的な取り組みで、東映太秦映画村で開催された「太秦戦国祭り2011」と連動したものである。ユーザーは同祭りの公式マスコットキャラクターである「からす天狗うじゅ」と共にクイズを解きながら京福電気鉄道（嵐電）沿線の名所やパワースポットを巡った。



携帯GPSゲームの開発に携った学生

学園トピックス

学園の取り組み

経営学部、政策科学部、 経営学研究科、政策科学研究科 2015年4月、大阪茨木新キャンパスへの移転を決定

10月12日(水)、学校法人立命館は、経営学部、政策科学部、経営学研究科、政策科学研究科の2015年4月、大阪府茨木市に開設予定の新キャンパスへの移転を決定いたしました。

立命館では2011年度よりスタートした2020年までの計画要綱「R2020基本計画」に、京都、滋賀そして大阪の3つのキャンパスでの教育・研究の質向上を掲げていますが、今回の移転決定をステップとして、その豊富化・具体化にいっそう取り組み、キャンパス創造の全体像をつくりあげていく予定です。



新キャンパス開設予定地

■移転の決まった学部・研究科

- 経営学部(1962年開設) 所在:びわこ・くさつキャンパス
- 政策科学部(1994年開設) 所在:衣笠キャンパス
- 経営学研究科(1966年開設) 所在:びわこ・くさつキャンパス
- 政策科学研究科(1997年開設) 所在:衣笠キャンパス

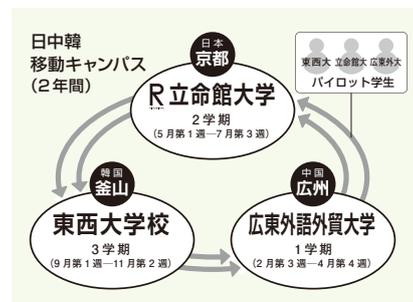
■新キャンパスについて

- 開設時期 / 2015年4月
- 場所 / サッポロビール大阪工場跡地
大阪府茨木市岩倉町1番地 他(JR茨木駅徒歩5分)
- 面積 / 121,891㎡

文部科学省「平成23年度大学の世界展開力強化事業」に 文学部が採択される

文部科学省「平成23年度 大学の世界展開力強化事業」に文学部が採択されました。この事業は今年度が初となる試みで、「タイプA:キャンパス・アジア中核拠点形成支援」「タイプB:米国大学等との協働教育

の創成支援」の2部門で公募があり、本学はタイプA-1「日中韓のトライアングル交流事業」において、広東外語外貿大学(中国)、東西大学校(韓国)と連携して行う「東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス」が採択されました。タイプB部門では立命館アジア太平洋大学が採択されています。



65年の歴史を持つ立命館土曜講座 3000回を迎える

「土曜講座」は故末川博名誉総長が、「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにあること、学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要である」と提唱し、1946年3月から衣笠キャンパスで開催している一般市民向け公開講座です。12月17日(土)に「土曜講座」が3000回を迎えることを記念し、11月に本学の校友である株式会社大垣書店代表取締役の大垣守弘氏らをお招きし、2回の特別講演会を開催しました。



講演する大垣守弘社長

教育・研究の取り組み

理工学部の教員・学生が 被災地の岩手・宮古の漁村に仮設集会所を建設

地域の交流の場だった介護施設が津波で流された岩手県宮古市重茂地区に、理工学部建築都市デザイン学科の宗本晋作准教授と学生約30名がドーム型の仮設集会所を建設しました。宗本准教授が「被災者の役に立ちたい」と無償で設計を引き受け、実現したプロジェクトです。参加した学生は、11月初旬から宮古市内の仮設住宅に泊まり込み、地元大工の方の指導を受けながら集会所を組み立て、1月9日(月)に竣工式を迎えました。完成した集会所は地域住民の新たな交流の場として利用されることを予定しています。



竣工式の様子

**田中道七・元立命館副総長、
志村治美・立命館大学名誉教授、
川崎清・元立命館大学理工学部教授が瑞宝中綬章を受章**

秋の叙勲において、田中道七・元立命館副総長、志村治美・立命館大学名誉教授、川崎清・元立命館大学理工学部教授が、その功績をたたえられ、叙勲を受けました。

- ◎田中道七 元立命館副総長
[受章] 瑞宝中綬章 [功労内容] 教育研究功労
- ◎志村治美 立命館大学名誉教授
[受章] 瑞宝中綬章 [功労内容] 教育研究功労
- ◎川崎 清 元立命館大学理工学部教授
[受章] 瑞宝中綬章 [功労内容] 教育研究功労



田中道七
元立命館副総長

**雑誌『AERA』（朝日新聞出版）にて
研究者紹介シリーズ第4弾がスタートしました**

今シリーズでは、「2011年度 東日本大震災に関する研究推進プログラム」に採択された震災復興に関わる研究テーマを中心にご紹介しています。2011年11月14日（月）～2012年2月27日（月）発行の雑誌『AERA』に毎週掲載される予定です。また掲載された内容は立命館HP「東日本大震災私たちにできること」からもご覧いただけます。



1月16日発売号に登場した
文学部地理学専攻の中谷友樹准教授

学生の取り組み

**「復興支援スタッフ」がクリスマスと
お正月に東北被災地にて活動**

立命館災害復興支援室では、クリスマスと年末年始の期間に、被災された方々の生活に寄り添い、応援することを目的とした「復興支援スタッフ（ボランティア）」を派遣しました。第1便として12月21日（水）から12月27日（火）にかけて、学生5名と職員2名の計7名を岩手県遠野市に、第2便として12月28日（水）から1月2日（月）にかけて、学生13名と職員2名の計15名を岩手県大槌町に派遣しました。第1便では、沿岸被災地の仮設住宅に暮らす方々にプレゼントを届ける「サンタが100人やってきた！プロジェクト」のメンバーとして活動。第2便では、被災した女性たちの仕事づくりをテーマにした復興支援「大槌復興刺し子プロジェクト」のサポートや大槌町内の神社で開催された年越しイベントのサポートスタッフと



サンタクロース姿で子どもたちにプレゼントを配る学生たち

して活動を行いました。災害復興支援室では今後も「復興支援スタッフ」としての学生派遣を継続的に取り組んでいきます。

立命館復興支援室瓦版（かわらばん）を発行しています

立命館災害復興支援室では、災害復興支援に関わる現地の情報や立命館の学生や教職員による取り組みなど、立命館による復興支援の「今」をお伝えする「立命館災害復興支援室 瓦版」を11月25日（金）から隔週で発行しています。瓦版は、立命館HP「東日本大震災 私たちにできること」からご覧いただけます。



立命館災害復興支援室 瓦版 第1号

下記よりPDFをダウンロードいただけます

- 瓦版第2号（1/13発行）
<http://www.ritsumeikan.ac.jp/file.jsp?id=50271>
- 瓦版第1号（12/9発行）
<http://www.ritsumeikan.ac.jp/file.jsp?id=46907>
- 瓦版準備号（11/25発行）
<http://www.ritsumeikan.ac.jp/file.jsp?id=45962>

**2011年度ボランティアプログラム
「台風12号災害復興ボランティアバス」を運行**

台風12号の豪雨災害を受けた和歌山県新宮市に向けてボランティアバスを2週連続で運行し、参加した学生および教職員は、家の床下の泥をかき出す作業や梅畑の流木の撤去などの活動を行いました。10月15日（土）から16日（日）までの第1便には14名、10月22日（土）から23日（日）の第2便には15名の学生が参加しました。活動を通じて、青年会議所などの地元の方々や和歌山大学の学生のみなさんとの交流も行いました。立命館では、東北の震災と同じく、紀伊半島の水害に対しても、復興支援を続けていきます。



家の床下の泥をかき出す様子

**立命館大学公式
Facebookページを
オープンしました**

立命館大学 /
Ritsumeikan University
(Facebook モバイル)



- アカウント名……立命館大学 / Ritsumeikan University
- 検索方法……Facebookの検索窓で、「立命館大学 / Ritsumeikan University」と入力するとページが出てきます。

2011年度後期 卒業式・学位授与式ご案内

衣笠キャンパス

2012年3月20日[火・祝]

[会場] 第一体育館 [父母会場] 以学館1号ホールおよび2号ホール

第1回(10:00～)	文学部、国際関係学部、政策科学部、映像学部
第2回(13:00～)	法学部、産業社会学部

びわこ・くさつキャンパス

2012年3月21日[水]

[会場] BKCジム [父母会場] プリズムホール

第1回(10:00～)	理工学部、情報理工学部、生命科学部
第2回(13:00～)	経済学部、経営学部

- 卒業合否発表は、2012年3月7日(水)午前10時、各学部掲示板およびホームページに掲載されます。
- 式典は厳粛に執り行います。時間に余裕を持って入場してください(開式10分前までに必ずご着席ください。)
- 式典会場の父母席は限られております。満席により式典会場にお入りいただけない場合がございますので、予めご了承ください。なお、式典会場の父母席が満席となった場合は、父母会場(上記参照)のご案内させていただきます。父母会場では映像により、学位授与式の模様をご覧いただくことが出来ます。
- お問い合わせは、所属学部事務室までお願い致します。

東京オフィス移転のお知らせ

東京オフィスは2012年1月10日(火)より東京キャンパスに移転しました。東京の玄関口といえる東京駅日本橋口すぐそばに設けられており、関東地区に勤める約2万人の卒業生と企業との連携を活かした就職サポートを実施しています。

東京キャンパスでの就職活動支援(月～金/9:00～17:30)※休祝日除く

- 1 就職相談(予約制)
- 2 在學生に学割、成績証明書などの各種証明書を発行(証明書は有料) ※卒業生への各種証明書の発行は行っていません。
- 3 インターネット端末の利用(無線LAN環境整備)
- 4 新聞、就職関連資料、書籍、雑誌や大学へ寄せられた各企業の最新情報等の閲覧
- 5 履歴書販売
- 6 更衣室
- 7 荷物預かり
- 8 コピーサービス(有料)
- 9 学生同士の情報交流の場、一時的な休息、待ち合わせの場としての利用



〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー 8階 立命館東京キャンパス
電話:03-5224-8188 FAX:03-5224-8189 学生専用番号:03-5224-8199

詳細は東京キャンパスホームページへ → http://www.ritsumeijp/tokyocampus/t02_01_j.html

大阪キャンパスのご案内

大阪キャンパスでは、立命館大学やAPUの学生の大阪を拠点とした就職活動の支援を行っています。JR大阪駅、阪急・阪神・地下鉄の梅田駅に近いアクセス条件で、豊富な企業情報の提供、就職活動に対する相談をはじめとする様々な業務を行っています。

大阪キャンパスでの就職活動支援(月～金/9:00～17:30)※休祝日除く

- 1 就職相談(受付時間9:30～17:00)
- 2 在學生に学割、成績証明書などの各種証明書を発行(証明書は有料) ※卒業生への各種証明書の発行は行っていません。
- 3 インターネット端末の利用
- 4 新聞、就職関連資料、書籍、雑誌や大学へ寄せられた各企業の最新情報等の閲覧
- 5 履歴書の販売
- 6 コピーサービス(有料)
- 7 学生同士の情報交流の場、一時的な休息、待ち合わせの場としての利用



詳細は大阪キャンパスホームページへ → http://www.ritsumeijp/osaka_office/o02_j.html

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeijp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは…
「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

会報が複数届いた方へ

ご兄弟で立命館大学に通われている場合、父母教育後援会の会費1名様分をご返金させていただきます。本誌が2通届いた方は事務局までご連絡ください。申請用紙を送付させていただきます。

■会員の住所変更について

本誌は、登録されている学生の保証人住所に送付しております。住所を変更された場合は、学生本人による住所変更の手続きが必要です。お子様に学生証をお持ちの上、所属の学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出ていただきますようお願いいたします。

※最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学外には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

立命館大学父母教育後援会だより 2011年度 冬号

2012年2月発行 立命館大学父母教育後援会 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel. 075-813-8261 Fax. 075-813-8262